



個別避難計画作成および 避難訓練実施に関する 事例集

令和6年3月策定
広島市
(令和7年4月改訂)

目次

0. 計画の記入ガイド	1
-------------	---

1. 計画作成に関する事例	5
(1) 行政と地域による作成事例	
事例1-1-1: 地域の中のつながりを活かした計画づくり(安芸区)	6
事例1-1-2: 訓練をきっかけにした計画づくり(安芸区)	7
事例1-1-3: 関係者の「それならできる」を集めた計画づくり(中区)	8
事例1-1-4: 地区別会議と本人への聞き取りを通じた計画づくり(安佐北区)	9
事例1-1-5: 地域の社会福祉施設を交えた計画づくり(広島県竹原市)	10
事例1-1-6: 認知症に伴う移動への不安を訓練で解消してからの計画づくり(安佐南区)	11
コ ラ ム : 計画づくりを通じた効果・変化(西区)	12
(2) 福祉専門職の参画による作成事例	
事例1-2-1: 日ごろのショートステイ利用につながる計画づくり(広島市)	14
事例1-2-2: バリアフリー化された小学校への避難計画づくり(広島市)	15
事例1-2-3: 発災時の柔軟な調整を前提とした計画づくり(安佐北区)	16
(3) 医療的なケアが必要な方の作成事例	
事例1-3-1: 病院を直接の避難先とする計画づくり(滋賀県高島市)	18
事例1-3-2: 電源確保を優先した計画づくり(佐賀県武雄市)	19
事例1-3-3: 在宅避難を前提とした計画づくり(中区)	20
事例1-3-4: 医療的ケア児・者コーディネーターの参画による計画づくり(南区)	21
事例1-3-5: 停電時の対応に必要な情報を踏まえた計画づくり(安佐南区)	22

目次

2. その場でできる確認訓練の実施ガイド	23
3. 訓練実施に関する事例	25
(1)部分的な訓練事例	
事例3-1-1:ベッドから玄関までの移動(高知県黒潮町)	26
事例3-1-2:玄関先までの移動(熊本県御船町)	27
事例3-1-3:自宅上層階への移動(南区)	28
コ ラ ム :地域の要支援者への理解を高めるための工夫(安佐北区・南区)	29
(2)避難先までの移動訓練事例	
事例3-2-1:「ひなんさんぽ」による避難先までの移動(愛知県岡崎市)	32
事例3-2-2:介護タクシーによる避難先までの移動(安佐南区)	33
事例3-2-3:車いすによる移動(広島市)	34
事例3-2-4:福祉専門職のアドバイスを活かした避難先までの移動(東区)	35
事例3-2-5:地域で設定した避難場所(ホテル)までの移動【補助金等活用】(東区)	36
コ ラ ム :参加しやすくするための工夫(高知県黒潮町・安佐北区)	37
参 考 :活用可能な広島市等の制度について	38
(3)医療的なケアが必要な方の訓練事例	
事例3-3-1:ヘルパーによる介助方法のレクチャーを含めた訓練(中区)	40
事例3-3-2:関係者で検討を重ねて実施した医療的ケア児の訓練(佐伯区)	41
事例3-3-3:避難先の確認を兼ねた福祉避難所への移動訓練(南区)	42
事例3-3-4:停電時の人工呼吸器、酸素濃縮器の操作手順の確認訓練(安芸区)	43
事例3-3-5:在宅避難を前提に連絡体制を確認する訓練(中区)	44
事例3-3-6:市が開設する避難場所への移動訓練(中区)	45
コ ラ ム :本人の周囲の意識を向上するための工夫(佐賀県武雄市)	46

0. 計画の記入ガイド

計画の記入ガイド

広島市では全ての避難行動要支援者を対象に、個人情報の外部提供の意向などを確認する「ひなん支援の調査」に併せて、個別避難計画（本市では「わたしのひなんシート」と呼んでいます）の様式を郵送し、まずは要支援者本人や家族による計画作成を促進しています。

取組の内容

全ての避難行動要支援者に対して、毎年8月頃に「ひなん支援の調査」の調査票が郵送されます。

本人や家族で、調査票の質問7つと避難先や避難方法などを確認する「わたしのひなんシート」などを記入できる範囲で記入し、市に返送します。

毎年8月頃に「ひなん支援の調査」の調査票が届きます

「ひなん支援の調査」の封筒が届いたら、災害時の避難について考えてみましょう。



あなたの状況に関することを回答します

1 〇〇〇-〇〇〇〇
広島市〇〇区〇〇町〇丁目〇〇番〇〇号
〇〇マンション〇〇号室
〇〇〇 〇〇〇 様

記入日：令和 年 月 日

〇〇-〇〇〇〇〇〇〇〇-〇

ひなん支援の調査 (令和5年度)

この調査票は全部で4ページです。
この調査票の4ページ目と同封のお知らせをご確認ください。ご回答ください。

【調査に回答する人】 ☐ 本人 ☐ 代理人 (代理人氏名：)

質問1 現在、施設へ入居・入所 または 長期（6か月程度）で入院していますか。

☐ はい < はい を選んだ人は、調査終了です >
☐ いいえ < いいえ を選んだ人は、質問2へ >

質問2 災害のときに、家族や知人の支援がなくても、自分でひなんできますか。

☐ はい < はい を選んだ人は、「わたしのひなんシート」を書いて、調査終了です >
☐ いいえ < いいえ を選んだ人は、質問3へ >

質問3 災害のときに、家族や知人から支援を受けてひなんできますか。

☐ はい (☐ 支援する人が仕事などで日常的にいない時間帯がある)
☐ いいえ

質問4 災害に備え、あなたの連絡先と、あなたと連絡がとれない場合の連絡先をお書きください。

氏名 (または名称)	電話番号	関係	住所 (分かる範囲で)
〇〇〇 〇〇〇		本人	

質問5 日頃、利用している医療機関などがあれば、お書きください。

区分	施設名	担当	電話番号
かかりつけ医療機関			
訪問看護ステーション			
ケアマネジャー・相談支援専門員			

右側の「わたしのひなんシート」を書ける範囲でお書きください。

1/4

質問1：入所・入院状況の確認

入所又は長期入院(6カ月以上)している人の情報は、地域の支援に関わる人等に提供する情報から除かれます。

質問2：自力避難の可否の確認

避難する時に家族等の支援が必要な人は「いいえ」と回答します。自分で避難できる人の情報は、地域の支援に関わる人等に提供する情報から除かれます。

質問3：災害時の家族等の支援状況の確認

同居する家族がいる場合であっても、家族の支援だけでは避難ができない場合は、「いいえ」と回答します。

質問4・5：連絡先の確認

災害時に備え、あらかじめ連絡先などを確認しておきます。

point

調査に回答する前に同封のお知らせ等を確認！

備蓄や避難情報の入手方法など防災に関する情報や回答する際の注意事項を記載しています。回答する前に確認してください。

「わたしのひなんシート(個別避難計画)」を作成します

「わたしのひなんシート(個別避難計画)」とは、災害のおそれがある場合に、迅速に避難行動を行うため、個人で「誰と」「どこに」「どうやって」避難するか等をあらかじめ検討し、まとめておくものです。状況によって、決めた通りに避難できない可能性もあるため、複数の避難先を確認しておきましょう。



ひろしま都市犬 はっしー

右の①～③を参考に、「わたしのひなんシート」を書いてみるワン！

①住まいの災害危険性

対象者のお住まいの災害危険性を表示しています。

②避難情報

お住まいが災害危険区域の対象者には、避難するタイミングの参考にする避難情報を表示しています。

③市が開設する避難場所

お住まいの小学校区内で、まず、市が開設する拠点的な避難場所を印字しています。

ひなん先

お住まいの災害危険性に対応したひなん先を検討します。自宅が災害危険区域外にある場合や想定される浸水深よりも高い階に居住する場合は、自宅での安全を確保することも選択肢の一つです。

■ ひなん先の例

- ・災害危険区域外など安全な場所にある親族・知人宅
- ・小学校など市が開設する避難場所
- ・市が協定を締結した社会福祉施設などの福祉避難所（直接避難するためには事前調整が必要です）
- ・自宅の上階
- ・安全な場所にあるホテルや旅館
- ・介護サービスや障害福祉サービスを利用した施設へのショートステイ

● ひなんを支援する人

電話での避難の呼びかけや安否確認、避難先までの移動支援など、家族やご近所さんなどで災害時の避難を支援する人を検討します。

■ ひなんを支援する人について

- ・支援者の負担を軽減するため、個人ではなく、町内会の班単位など、組織を支援者とすることも選択肢です。
- ・支援者の体力や状況等を踏まえ、複数人で役割分担し避難の支援を実施すること考えられます。

point

「わたしのひなんシート」は、書ける範囲で無理せずに！

「わたしのひなんシート」はできる範囲で記入し、記入が難しい箇所については、空欄のままで構いません。空欄がある場合は、コールセンターから電話をする場合があります。

個人情報の外部提供の意向等を回答します

質問6:わたしのひなんシートに関するアンケート

わたしのひなんシートが完成しなかった人は書くことが難しかった理由を回答します。

質問7:個人情報の外部提供に関する意向確認

氏名や住所などひなん支援に必要な情報を地域等と提供することに同意するかを回答します。



支援を必要としていることを周りの人に知っておいてもらうことが大切ワン！

わたしの情報

情報の外部提供に同意した人は、身体の状態などの情報を記入します。

オモテ面の「わたしのひなんシート」が完成した人（ひなん先やひなんを支援する人を書いた人）は **質問7** へ
空欄がある人は **質問6** へ

質問6 「わたしのひなんシート」を書くことが難しかった（書かなかった）理由を教えてください。

☐ ひなんシートを作成する意思がない
☐ ひなん先がわからない
☐ ひなんを支援する人がいない
☐ その他（ ）

質問7 災害のときのために、ひなん支援に必要な情報を地域等と共有することに同意しますか。

☐ はい < はい を選んだ人は、**わたしの情報** をお書きください >
☐ いいえ < いいえ を選んだ人は、調査終了です >

わたしの情報

（ふりがな）氏名	性別	生年月日
住所	電話番号	
※上の住所がお住まいの住所と異なる場合は、こちらにお住まいの住所をお書きください。		
該当要件	☐ 要介護 ☐ 身体障害 ☐ 精神障害 ☐ 知的障害 ☐ 難病 ☐ その他	
同居している人	☐ あり（氏名（関係）： ） ☐ なし（ひとり暮らし）	
町内会・自治会	☐ 入っている（町内会・自治会名： ） ☐ 入っていない（ ☐ いまは入っていないが、話を聞いてみたい ）	
交流のある人（ご近所さん）	① 氏名：	関係：
	② 氏名：	関係：
住まいの状況	① ☐ 木造 ☐ 鉄骨造 ☐ 鉄筋コンクリート造	
	② ☐ 一戸建て ☐ 集合住宅	
	③ 階建て 階に居住（ 建築時期： 年頃 ）	
ひなんする時に困ること	☐ 気象情報やひなん情報の入手（ ）	
	☐ ひなん先までの移動（ ）	
	☐ その他（ ）	
身体の状態	☐ 車いす使用 ☐ 杖使用 ☐ 歩行器使用 ☐ 寝たきり	
	☐ 耳が聞こえない・聞こえにくい（ ☐ 筆談 ☐ 手話 ） ☐ 話すことが難しい	
	☐ 言葉や文字の理解が難しい ☐ 目が見えない・見えにくい	
	☐ その他（ ）	

以上で調査終了です。ご協力ありがとうございました。

3 / 4

■ 共有する情報(ひなん支援に必要な情報)

- ・ 氏名 ・ 生年月日 ・ 性別 ・ 住所 ・ 連絡先(電話番号など)
- ・ ひなん支援に必要な事由(要介護度や障害の種類、等級など)
- ・ ひなん支援の調査票(「わたしのひなんシート」、「わたしの情報」含む)

■ 情報を共有する人

- 地域で支援に関わる人(自主防災組織、町内会・自治会、地区社会福祉協議会、民生委員・児童委員、消防団、地域包括支援センター、障害者基幹相談支援センター、ひなんを支援する人)
- 行政機関(警察)

記入した調査票を市に返送します

記入した調査票は同封の返信用封筒で市に返送します。返送された調査票のうち「わたしのひなんシート」の「ひなん先」と「あなたのひなんを支援する人」が埋まっているものは、記入された「ひなん先」の災害危険性を市で確認した後、調査票の写しをお返しします。

1. 計画作成に関する事例

(1) 行政と地域による作成事例

事例1-1-1:地域の中のつながりを活かした計画づくり(安芸区)	6
事例1-1-2:訓練をきっかけにした計画づくり(安芸区)	7
事例1-1-3:関係者の「それならできる」を集めた計画づくり(中区)	8
事例1-1-4:地区別会議と本人への聞き取りを通じた計画づくり(安佐北区)	9
事例1-1-5:地域の社会福祉施設を交えた計画づくり(広島県竹原市)	10
事例1-1-6:認知症に伴う移動への不安を訓練で解消してからの計画づくり(安佐南区)	11
コ ラ ム :計画づくりを通じた効果・変化(西区)	12

(1)行政と地域による作成事例

本人の心身の状況	☐ 要介護 ☐ 身体障害 ☐ 精神障害 ☐ 知的障害 ☐ 難病 ☐ 人工呼吸器 ☐ その他	避難先	☐ 親族・知人宅 ☐ 市が開設する避難場所 ☐ 福祉避難所 ☐ 自宅(階) ☐ その他
自宅の災害危険性	☒ 土砂災害 ☐ 洪水 ☐ 高潮 ☐ 津波	参加者	☒ 本人 ☒ 家族 ☒ 地域住民 ☒ 福祉専門職 ☒ 行政職員 ☒ その他

事例1-1-1

地域の中のつながりを活かした計画づくり（令和4年度・安芸区）

計画づくりにあたって、地域と関わりがない対象者や、医療や介護の依存度が高いことで地域による支援を得ることが難しい対象者の計画作成が困難な状況を踏まえ、地域の既存組織である「畑賀あんしんネットワーク」を活かして取り組みました。

※広島市では、「高齢者地域支え合い事業」として、地域で見守り活動等を行うネットワークが100団体以上立ち上がっており、「畑賀あんしんネットワーク」はその一つです。

高齢者地域支え合い事業とは…

地域包括支援センターがコーディネーターとなり、小学校区(地区・学区社会福祉協議会単位)を基本として、民生委員・児童委員や地区・学区社会福祉協議会、町内会・自治会、老人クラブといった様々な活動主体の連携強化及び見守り活動情報の一元化・共有化を図ることができるネットワークを構築するなど、地域の実情に応じて高齢者を地域で見守り・支え合う仕組みを構築し、見守り活動を基本に高齢者の活動・交流の場づくり、生活支援サービスへのつながりなど、共に支え合う地域づくりを推進しています。

取組の内容

既に地域で活動している団体に協力を依頼、その団体が主体となって本人との調整を行いました。

<取組の流れ>

団体へ 協力依頼

「畑賀あんしんネットワーク」の構成団体に対して、計画作成に関する取組について説明し、取組への協力を依頼。対象者の自宅訪問を行う民生委員や福祉委員に対しては、個別に説明。

point 地域の信頼されている団体・組織を活用！

地区内で要配慮者に関する取組を進めていた「畑賀あんしんネットワーク」と上手く連携することで、既存のネットワークを活用でき、円滑に取組を進められました。

団体による 本人との調整

地区社会福祉協議会や広島市瀬野川・船越地域包括支援センター、民生委員や福祉委員などが主体となって本人の自宅を訪問し、計画作成に向けた説明や調整などを実施。

point 地域の既存組織が避難先・支援者を調整！

地区社会福祉協議会や民生委員、福祉委員などが自宅を訪問し、計画について説明した上で、避難先や支援者等を調整しました。

計画づくり



自宅訪問時の様子

取組による効果

◆（本人）地域と一緒に考えることで安心感を得られた

地域による支援を受けるのが難しいために避難することを諦めていた要支援者が、地域住民と顔の見える関係を構築できたことで、**地域の人が自分のことを気にかけてくれているんだという安心感が芽生え**ました。

◆（地域）要支援者との関係づくりができた

訪問看護師や社会福祉施設職員などと連携することにより、地域住民の要支援者への理解が深まり、地域の防災力が向上しました。

(1)行政と地域による作成事例

本人の心身の状況	☐ 要介護 ☐ 身体障害 ☐ 精神障害 ☐ 知的障害 ☐ 難病 ☐ 人工呼吸器 ☐ その他	避難先	☐ 親族・知人宅 ☐ 市が開設する避難場所 ☐ 福祉避難所 ☐ 自宅(階) ☐ その他
自宅の災害危険性	☐ 土砂災害 ☐ 洪水 ☒ 高潮 ☒ 津波	参加者	☒ 本人 ☒ 家族 ☒ 地域住民 ☐ 福祉専門職 ☒ 行政職員 ☒ その他

事例1-1-2

訓練をきっかけにした計画づくり (令和5年度・安芸区)

実際に本人が支援者と一緒に訓練に参加し、避難することに対するイメージができたことで、支援者とともに、訓練を踏まえた、より実効性の高い計画を作成しました。

取組の内容

地域で行う訓練に本人も参加するよう呼びかけ、実際に訓練に参加しながら災害時の行動を確認し、訓練後、計画を作成しました。

<取組の流れ>

参加の呼びかけ

日頃から関わりのある支援者(民生委員)が本人の自宅を訪問し、避難訓練への参加を呼びかけ。



避難訓練の様子



炊き出し訓練・試食

訓練で避難行動と支援の確認

本人が支援者(民生委員)とともに、避難先や避難ルートを確認。

point

まずは訓練参加からスタートし、計画づくりのきっかけに！

まだ計画がない対象者は、避難した先で計画を作成しました。まずは地域行事に参加し、支援者とともにその場で計画について考えることで、お互いに話しやすくなりました。また、実際に避難先まで行ってみることで、計画の内容も考えやすくなりました。

訓練後の検証・計画作成

訓練を通して、本人と行政、自主防災会、支援者(民生委員)などが関わりながら、避難ルートや避難先での避難生活について検証し、すでに計画がある対象者は計画を見直し、まだ計画がない対象者は新たに計画を作成。

point

支援の仕方や内容を見直し！

避難できると思っている、実際には交通量が多く危険であることや、最短ルートで移動した場合は坂道があり支援者1人で支援するのは厳しいことなどが判明しました。

日頃、不自由なく通っている道でも、車いすを押しながら移動すると、少しの段差でも思い通りにならないことや、坂道では想像以上に体力を消耗することなども分かり、支援の仕方や内容について、改めて本人と考え直すきっかけとなりました。

計画づくり

取組による効果

◆(本人)実効性のある計画が作成できた

訓練を通じた新たな気づきや発見をもとに、計画の見直しや作成を行うことで、より実効性のある計画を作成することができました。

◆(地域)実際の支援の仕方をイメージできた

本人と支援者が一緒になって避難訓練に参加することで、実際に避難を体験でき、避難ルートや避難方法、支援の実態をイメージすることができました。

(1)行政と地域による作成事例

本人の心身の状況	☒ 要介護 ☐ 難病	☐ 身体障害 ☐ 人工呼吸器	☐ 精神障害 ☐ その他	☐ 知的障害	避難先	☐ 親族・知人宅 ☒ 福祉避難所	☐ 市が開設する避難場所 ☐ 自宅(階) ☐ その他
自宅の災害危険性	☐ 土砂災害	☒ 洪水	☒ 高潮	☐ 津波	参加者	☒ 本人 ☒ 行政職員	☒ 家族 ☒ 地域住民 ☒ 福祉専門職 ☐ その他

事例1-1-3

関係者の「それならできる」を集めた計画づくり (令和5年度・中区)

要支援者の家族による支援のみでは避難が難しく、外部からの支援が必要なことから、地域の関係者や福祉専門職などが集まり、支援の方法や役割を検討・調整しながら、計画づくりに取り組みました。

取組の内容

地域団体や地域包括支援センターなどが集まる研修会で、区役所の職員が取組の説明を行った際に、地域住民から支援方法等について不安の声があがったため、福祉専門職を含めた避難支援の関係者を集めた会議を開催し、支援の時間帯の違いに応じた支援者や支援の方法について検討・整理しました。

<取組の流れ>

関係者による 情報共有・検討

地域包括支援センターが中心となり、本人・家族、町内会長・民生委員・近隣住民などの地域の関係者、担当のケアマネジャーや訪問看護師などの福祉専門職、福祉避難所の管理者を集め、本人情報を共有した上で、避難方法を検討。

point

信頼ある包括支援センターが中心となって、協議・調整をリード！

地域包括支援センターが中心となったことで、避難支援に関わる多くの人を集めることができ、円滑に支援の調整を行うことができました。

point

自宅の様子を動画で確認し、支援方法を検討！

要支援者本人の自宅の様子を撮影した動画の視聴を通じて、関係者間で自宅内の生活状況を把握することができ、玄関までの移動方法等の具体的な検討につながりました。

支援者の調整

関係者の中から支援者を定めた上で、ヘルパーによる支援が難しい時間帯に、家族による支援をサポートする近隣住民を確保・調整。

支援方法などの確認

本人や支援者、ヘルパーなどが集まり、車いすへの移乗方法などや避難先までの移動などの支援方法を確認。

計画づくり

取組による効果

◆ 幅広い関係者が連携し、「それならできる」を集めた支援体制の構築

個人では対応が難しい場合でも、**幅広い関係者が、それぞれができる支援方法を出し合う**ことで、次のように具体的な支援方法の検討が進みました。

- ・ 介護支援専門員は、本人自宅の家具固定や持出品・薬の準備など事前の備えや災害時のサービス調整
- ・ 民生委員等は、災害時の安否確認の結果を介護支援専門員に連絡
- ・ 近隣住民は、ヘルパーが不在の時間帯に本人をベッドから車いすに移乗させ、福祉避難所まで同行
- ・ ヘルパーは、本人に負担の少ない移乗方法を訓練の際に近隣住民等にレクチャー
- ・ 福祉避難所は、避難の際に可能な範囲で福祉車両や車いすの貸し出し など

(1)行政と地域による作成事例

本人の心身の状況	☐ 要介護 ☐ 身体障害 ☐ 精神障害 ☐ 知的障害 ☐ 難病 ☐ 人工呼吸器 ☐ その他	避難先	☐ 親族・知人宅 ☐ 市が開設する避難場所 ☐ 福祉避難所 ☐ 自宅(階) ☐ その他
自宅の災害危険性	☒ 土砂災害 ☒ 洪水 ☐ 高潮 ☐ 津波	参加者	☒ 本人 ☒ 家族 ☒ 地域住民 ☒ 福祉専門職 ☒ 行政職員 ☒ その他

事例1-1-4

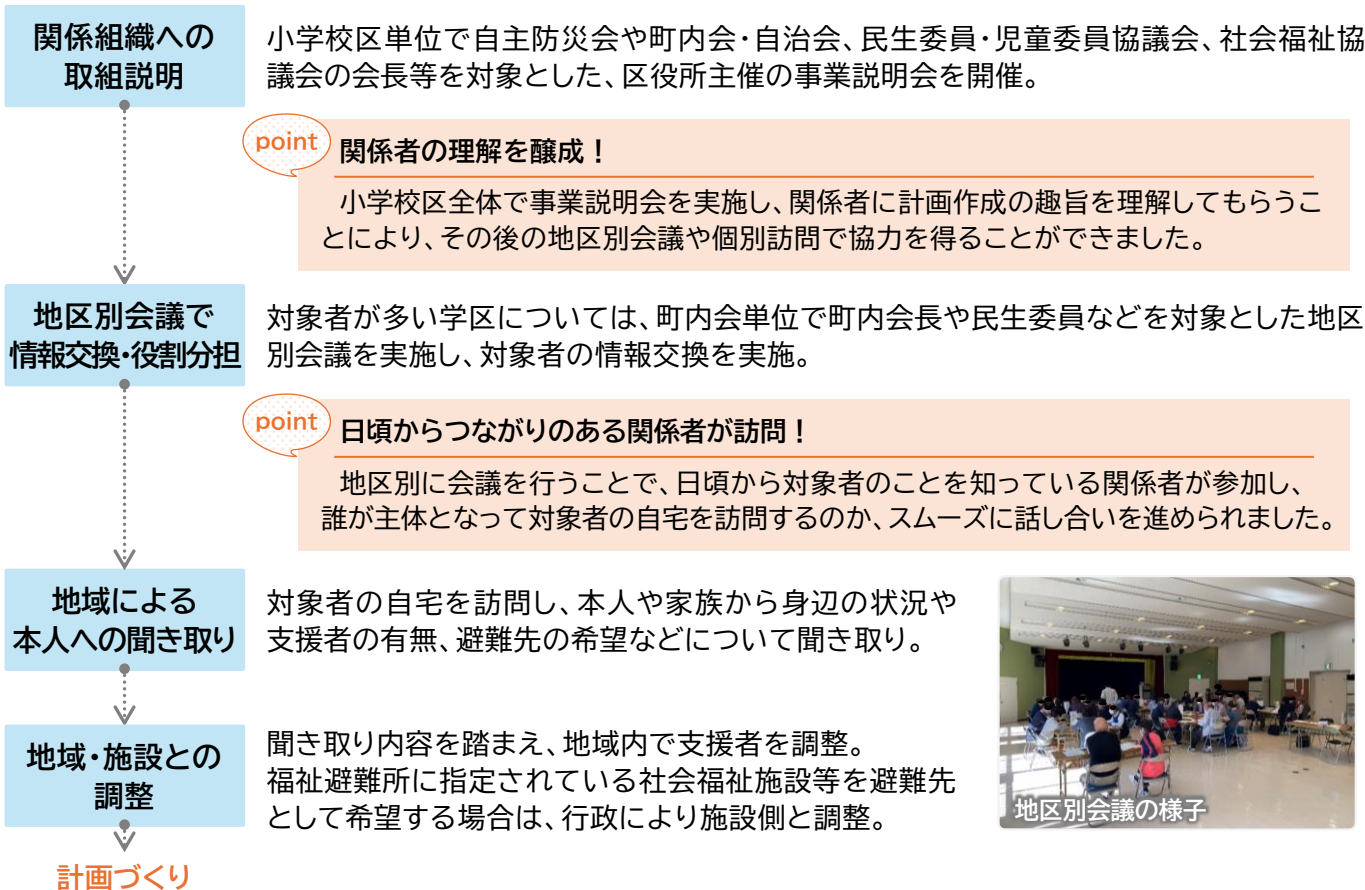
地区別会議と本人への聞き取りを通じた計画づくり (令和4年度・安佐北区)

広島市では、小学校区ごとに地域と行政が連携した計画作成を進めています。安佐北区のある学区では、地区別に地域の関係者が集う会議を開催し、情報交換を行いながら取り組みました。

取組の内容

関係組織への小学校区単位での事業説明会を開催し、その後、地区単位で要支援者に関する関係者同士の情報交換を図った上で、本人への聞き取りを行い、支援者・避難先を調整しました。

<取組の流れ>



取組による効果

◆ (本人)地域とのつながりにより安心感を得られた

対象者への聞き取りにあたって地域住民が自宅に訪問してくれるため、**地域住民とのつながりがあることを感じ、安心感が得られました。**

◆ (地域)地区単位で検討することで、日頃のつながりのある要支援者のことを考えられた

日頃の暮らしを通じて、**本人の顔や生活を知っている関係者同士で協議**することができ、対象となる要支援者の個別具体的な状況を踏まえた検討を行うことができました。

(1)行政と地域による作成事例

本人の心身の状況	☒ 要介護 ☐ 難病	☐ 身体障害 ☐ 人工呼吸器	☐ 精神障害 ☐ その他	☐ 知的障害	避難先	☒ 親族・知人宅 ☒ 福祉避難所	☐ 市が開設する避難場所 ☐ 自宅(階) ☒ その他
自宅の災害危険性	☐ 土砂災害	☒ 洪水	☐ 高潮	☐ 津波	参加者	☐ 本人 ☒ 行政職員	☒ 家族 ☒ 地域住民 ☒ 福祉専門職 ☒ その他

事例1-1-5

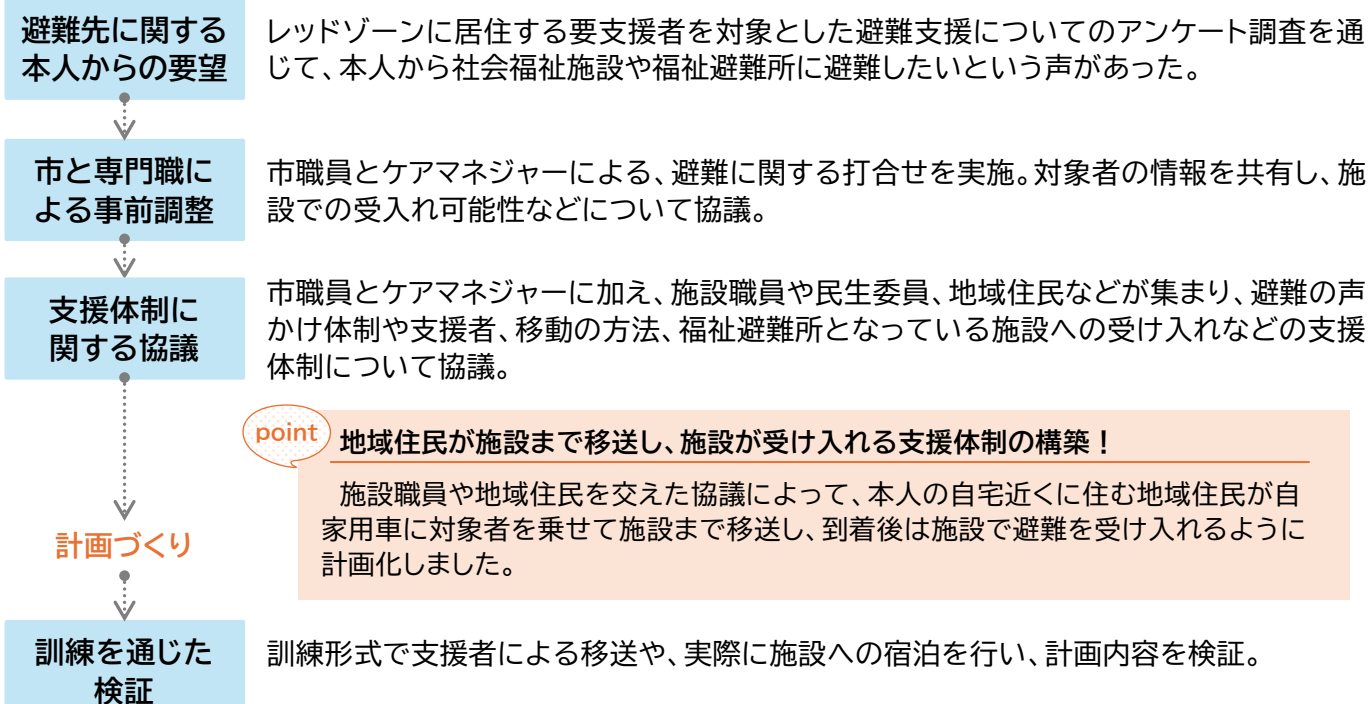
地域の社会福祉施設を交えた計画づくり (広島県竹原市)

平成30年7月豪雨の経験を踏まえ、民生委員や自治会から地域の高齢者等の避難に対する心配の声が挙げられるようになったことから、安全なうちに早めに避難できれば安心して避難できるため、社会福祉施設を直接的な避難先とする計画づくりに取り組みました。

取組の内容

市職員と福祉専門職で事前に打合せを重ねてから、施設職員や地域住民を交えて支援体制について協議し、避難先や支援者を決めて計画化しました。

<取組の流れ>



取組による効果

◆ 本人と施設で顔の見える関係が構築された

施設への避難を計画化し、**事前に双方が知り合うことができ、災害時に対応しやすくなりました。**

(1)行政と地域による作成事例

本人の心身の状況	☒ 要介護 ☐ 難病	☐ 身体障害 ☐ 人工呼吸器	☐ 精神障害 ☐ その他	☐ 知的障害	避難先	☐ 親族・知人宅 ☒ 福祉避難所	☐ 市が開設する避難場所 ☐ 自宅(階) ☐ その他
自宅の災害危険性	☒ 土砂災害	☐ 洪水	☐ 高潮	☐ 津波	参加者	☒ 本人 ☒ 行政職員	☐ 家族 ☒ 地域住民 ☒ 福祉専門職 ☐ その他

事例1-1-6

認知症に伴う移動への不安を訓練で解消してからの計画づくり

(令和6年度・安佐南区)

個別避難計画を作成する前に、本人と民生委員、近隣住民と一緒に避難先の候補である福祉避難所まで移動を伴う訓練を実施し、実効性の高い計画を作成しました。

取組の内容

行政職員、地域住民、福祉専門職などの関係者で避難先や支援者等の検討を行い、避難先までの移動を伴う訓練を実施し、訓練結果を踏まえ、計画を作成しました。

<取組の流れ>

関係者会議の開催

重度の認知症の人の個別避難計画作成について、本人と関わりのある民生委員の呼びかけにより、防災担当職員、民生委員、ケアマネジャー、後見人で関係者会議を開きました。本人に関する情報共有を行ったうえで、避難先は本人が利用しているデイサービスの施設(福祉避難所)とし、介護タクシーによる移動を検討しました。本人が重度の認知症を患っていることなどにより、普段、乗り慣れているデイサービスの送迎バス以外の方法で避難できるか課題がありました。

point

デイサービスで利用している施設を避難先に！

本人がデイサービスで利用している施設(福祉避難所)を避難先とし、避難することに対する心理的ハードルを少しでも下げるようにしました。

移動訓練の実施

関係者会議で、試みに介護タクシーで避難先まで移動してみてもどうかという意見があり、本人が利用したことがある介護タクシーを手配し、本人が信頼を寄せる近隣住民と民生委員と一緒に施設に移動しました。

point

本人が安心して訓練に臨める配慮

不安になりやすい方のため、本人が安心できる方を把握し、参加してもらうことでスムーズに進めることができました。また、施設職員のアドバイスにより、近隣住民と民生委員以外は離れた場所から訓練の様子を見守りました。

訓練の検証

介護タクシーでの移動をすることができたため、介護タクシーを移動手段として計画を作成しました。また、訓練を踏まえ、支援方法などを確認しました。

計画づくり



取組による効果

◆ 地域と顔の見える関係をつくるきっかけとなる！

計画作成を通じて、様々な関係者が本人と信頼関係を築く必要があるとわかったため、本人と普段から関わりのある民生委員や本人が信頼を寄せる近隣住民以外にも地域全体で声かけを行うなど、**顔の見える関係**をつくるきっかけとなりました。

◆ 実効性のある計画が作成できた！

訓練を実施したことで課題を把握でき、より**実効性のある計画**を作成することができました。

計画づくりを通じた効果・変化

計画づくりを通して、町内会のつながりを再確認！（令和4年度・西区）

<計画づくり以前の状況>

地域住民の間では、「要支援者」や「避難支援に関する取組」に関する認知度が低く、要支援者本人と町内会のつながりも途切れている状況でした。



計画づくりによって...

地域とのつながりの重要性を再認識し、町内会に再入会！

本人が**避難の重要性や災害時にとるべき行動等について改めて確認**する機会となり、**町内会に入会することのメリットや、地域とつながりを持つことの重要性について再認識**してもらうことができ、関係性が途切れていた町内会に再入会することになりました。

1. 計画作成に関する事例

(2)福祉専門職の参画による作成事例

事例1-2-1:日ごろのショートステイ利用につながる計画づくり(広島市)	14
事例1-2-2:バリアフリー化された小学校への避難計画づくり(広島市)	15
事例1-2-3:発災時の柔軟な調整を前提とした計画づくり(安佐北区)	16

(2)福祉専門職の参画による作成事例

本人の心身の状況	☒ 要介護 ☐ 難病	☒ 身体障害 ☐ 人工呼吸器	☐ 精神障害 ☐ 知的障害	☒ その他(車いす使用)	避難先	☐ 親族・知人宅 ☐ 福祉避難所	☐ 市が開設する避難場所 ☐ 自宅(階)	☒ その他
自宅の災害危険性	☒ 土砂災害	☐ 洪水	☐ 高潮	☐ 津波	参加者	☐ 本人 ☒ 行政職員	☒ 家族 ☐ 地域住民	☒ 福祉専門職 ☐ その他

事例1-2-1

日ごろのショートステイ利用につながる計画づくり (令和3年度・広島市)

災害時に小学校などの避難場所での避難生活を送ることが難しく、地域による支援も難しい避難行動要支援者を、設備の整った避難先に直接避難できるようにするため、ケアマネジャーが関わり、適正な避難先を検討して計画づくりを行いました。この検討を通じて、日ごろからの本人のショートステイ利用につながりました。

取組の内容

本人のことをよく知るケアマネジャーが計画づくりに参画し、災害時に施設のショートステイを利用できるように調整することで、災害発生前に、平时に利用する施設への早めの避難をできるようにしました。

<取組の流れ>

専門職による 本人の状態の確認

担当のケアマネジャーと市職員が本人の自宅に訪問し、本人・家族の状態や状況、災害に対する備えの状況などを確認。

point

担当の福祉専門職が参画することで、周囲との関係性も把握！

日ごろから本人と関わりがあり、本人や周囲の状況をよく知るケアマネジャーから本人に聞き取りを行うことで、本人の情報だけでなく、家族や地域との関係性についても詳しく把握することができました。

市と専門職で 避難先の協議

避難場所の設定や避難に向けた調整について、ケアマネジャーと市職員で協議。

専門職による 施設との調整

本人の状態から小学校などの避難場所では生活が困難であることを踏まえ、事前に施設に避難できるようにすること、ショートステイとして利用できるように調整。

計画づくり

point

災害発生のおそれのある場合、早めの避難でショートステイを利用！

本人をよく知るケアマネジャーが関わり、施設と調整を進めることで、ショートステイなどを利用して、災害発生前の早めの避難につながる計画づくりができました。

取組による効果

◆ 平常時から定期的にショートステイを利用するようになった

これまではショートステイを利用したことがありませんでしたが、計画作成を通じて、災害時にショートステイを利用する必要性を理解したことで、平常時から定期的にショートステイを利用するようになりました。

◆ 本人と施設とのつながりができた

本人と施設の関係性ができたことで、**台風など事前に大雨が予測される時には、施設から家族に対してショートステイの利用希望を確認**してもらえるようになりました。

(2)福祉専門職の参画による作成事例

本人の心身の状況	☐ 要介護 ☐ 難病	☒ 身体障害 ☐ 人工呼吸器	☐ 精神障害 ☐ 知的障害	☐ 避難先 ☐ 福祉避難所	☐ 親族・知人宅 ☐ 福祉避難所	☒ 市が開設する避難場所 ☐ 自宅(階) ☐ その他
自宅の災害危険性	☒ 土砂災害 ☐ 洪水 ☐ 高潮 ☐ 津波			参加者	☒ 本人 ☒ 行政職員	☐ 家族 ☐ 地域住民 ☐ 福祉専門職 ☐ その他

事例1-2-2

バリアフリー化された小学校への避難計画づくり (令和4年度・広島市)

障害支援区分が高く、支援がより必要なため、自身が作成した「わたしのひなんシート」に記載された避難先の環境などについて、相談支援専門員が参画しながら改めて確認しました。

取組の内容

本人と関わりのある相談支援専門員と市職員が、本人と調整しながら、馴染みがあり、要支援者の受入れを可能とした一般避難所に避難する計画を作成しました。

<取組の流れ>

市から専門職への聞き取り

市から担当の相談支援専門員に対し、本人の心身の状態に関する情報や、定期的な訪問の状況などについて聞き取り。



市と専門職による本人への聞き取り

自宅に訪問し、本人および家族の状態や、避難先の状況について協議。本人が自力でできることと、介助が必要なことを明確にし、要支援者の受入れが可能な一般避難所を避難先とした計画を作成。

point 本人の馴染みのある場所を避難先として設定！

市が開設する避難場所になっている小学校は、本人が入学する際にスロープを設置する等の対応を行っており、避難生活を送れることができ、また、馴染みのある場所に避難することで不安が軽減されるため、避難先として計画化しました。

計画づくり

専門職と本人で計画の確認

作成した計画を複写し、相談支援専門員によるモニタリング時に、本人とともに計画を確認。

point 相談支援専門員のモニタリングの訪問時に合わせて計画確認！

3か月に1回のモニタリングとして、相談支援専門員が自宅を訪問するタイミングで、作成した計画の確認を行いました。

取組による効果

◆ 市が開設する避難場所への避難が可能なことを確認できた

本人が自力でできることと、介助が必要なことを明確にしたことで、馴染みのある小学校への避難が可能なことを確認し、避難先として設定することができました。

(2)福祉専門職の参画による作成事例

本人の心身の状況	☒ 要介護 ☐ 難病	☒ 身体障害 ☐ 人工呼吸器	☐ 精神障害 ☐ その他	☐ 知的障害	避難先	☐ 親族・知人宅 ☐ 福祉避難所	☒ 市が開設する避難場所 ☐ 自宅(階) ☐ その他
自宅の災害危険性	☒ 土砂災害	☐ 洪水	☐ 高潮	☐ 津波	参加者	☒ 本人 ☒ 行政職員	☒ 家族 ☐ 地域住民 ☒ 福祉専門職 ☐ その他

事例1-2-3

発災時の柔軟な調整を前提とした計画づくり（令和6年度・安佐北区）

市が開設する避難場所での長期滞在は難しいものの、福祉避難所やショートステイ等の調整は不確実性が高いため、ケアマネジャーの参画のもと、行政、家族との3者で話し合いを行い、発災時に滞在先を柔軟に調整することを前提とした計画を作成しました。

取組の内容

本人と関わりのあるケアマネジャーと市職員が、本人やご家族と調整しながら計画を作成しました。

<取組の流れ>

市から専門職への聞き取り

市から担当ケアマネジャーに連絡し、本人や家族の心身の状態に関する情報などについて聞き取りました。



市と専門職による訪問

防災担当職員とケアマネジャーで自宅を訪問し、利用可能な福祉制度、市が開設する避難場所、本人や家族の状態について、以下のような情報を共有しました。

- ・ 本人や家族としては避難先のトイレが心配だが、市が開設する避難場所である小学校にも多目的トイレがあるため、いったんは滞在可能であること
- ・ かかりつけ医療機関の空き状況によっては、レスパイト入院が可能であること
- ・ 過去にショートステイで利用した福祉施設があり、避難先の候補の一つであること
- ・ 自宅の近くに福祉避難所としての開設に協力的で設備の整った施設があること
- ・ 状況によっては家族と滞在できることが望ましいこと

これらを踏まえ、発災時に、本人や家族の状況、施設の空き状況により、ケアマネジャーと区で福祉避難所、ショートステイ、レスパイト入院のうち最適な滞在先を柔軟に調整することを前提に、まずは市が開設する避難場所に避難することとした計画を作成しました。

point 家族、行政職員、ケアマネジャーで情報交換！

家族と行政職員、ケアマネジャーの3者で話をする中で、お互いに情報を共有し、複数の選択肢から柔軟に調整を行う、実効性の高い計画を作成しました。

計画づくり

取組による効果

◆ 家族、行政職員、ケアマネジャーの協力で実効性の高い計画を作成できた

家族からは必要な環境や周囲から受けられる支援について、ケアマネジャーからは利用可能なサービス等について、行政職員からは福祉避難所の利用の流れ等について、**それぞれが情報を持ち寄ることで**、複数の避難先の選択肢から**無理のない避難の流れを設定**することができました。

また、ケアマネジャーとしても、本人宅の過去の被災歴などから災害時の対応について心配していたところ、ハザードマップ等で丁寧に説明することで、家族にも避難の必要性について納得いただき、避難を前向きに捉えていただくことができました。

1. 計画作成に関する事例

(3) 医療的なケアが必要な方の作成事例

事例1-3-1:病院を直接の避難先とする計画づくり(滋賀県高島市)	18
事例1-3-2:電源確保を優先した計画づくり(佐賀県武雄市)	19
事例1-3-3:在宅避難を前提とした計画づくり(中区)	20
事例1-3-4:医療的ケア児・者コーディネーターの参画を得た計画づくり(南区)	21
事例1-3-5:停電時の対応に必要な情報を踏まえた計画づくり(安佐南区)	22

(3)医療的なケアが必要な方の作成事例

本人の心身の状況	☒ 要介護 ☐ 難病	☐ 身体障害 ☐ 人工呼吸器	☐ 精神障害 ☐ 知的障害 ☒ その他(吸引器使用)	避難先	☐ 親族・知人宅 ☒ 福祉避難所	☐ 市が開設する避難場所 ☐ 自宅(階) ☒ その他
自宅の災害危険性	☐ 土砂災害 ☐ 洪水	☐ 高潮 ☐ 津波		参加者	☐ 本人 ☒ 行政職員	☒ 家族 ☒ 地域住民 ☒ 福祉専門職 ☐ その他

事例1-3-1

病院を直接の避難先とする計画づくり (滋賀県高島市)

吸引器などの医療機器を使用している避難行動要支援者の避難支援について、日ごろから関わりのある福祉専門職と地域の避難支援者、市職員等で協議し、協議の中で避難先の候補としてあげられた病院と調整して、「病院を直接の避難先」とする計画づくりを行いました。

取組の内容

本人の状況についてよく知る福祉専門職が参画した地域調整会議において「入院したことがある病院」を避難先の候補とし協議した上で、その病院との災害時の受入れに関する調整をして、計画を作成しました。



本人への聞き取りの様子

<取組の流れ>

専門職による本人 状態等の確認

市職員と本人の担当ケアマネジャーが自宅に訪問し、本人の心身の状態や、家族の災害に対する備えの状況を確認。

関係者を交えた 避難行動の検討

本人の家族とともに、地域住民、ケアマネジャー、訪問看護師、市職員など避難支援の関係者が参加した地域調整会議を開催。災害時の本人・家族の避難行動を検討し、タイムラインとして整理。

point 担当のケアマネジャーや訪問看護師も地域調整会議に参加！

日頃から担当しているケアマネジャーや訪問看護師も会議に参加したことで、本人の心身の状況について詳しく紹介され、本人の家族と地域住民との意見交換も活発に行うことができました。

病院と避難の 受入れ調整

大雨・台風時の「早期注意情報」の段階でレスパイト入院ができるよう、病院と調整。その他、「福祉避難所」や「一次避難所」も避難先として設定。

※レスパイト入院とは、在宅医療を受けている方が、入院治療の必要がない場合でも、短期間の入院として病院で受入れること。

point 地域調整会議内での意見を踏まえ、病院と受入調整！

会議内で、以前入院したことがある病院へのレスパイト入院はできないのかという意見が出されました。その後、ケアマネジャーや訪問看護師と医師等により受け入れに関する調整が行われ、最終的には「病院」が避難先の一つとして位置づけられました。

計画づくり

取組による効果

◆ 避難に対する不安の払拭と必要な処置の期待！

避難先の一つとして、以前入院したことがある病院へのレスパイト入院を計画化できたため、本人とその家族、地域の支援者にとって、**避難に対する不安の払拭につながり**、また、必要に応じて医療的な処置も期待できるようになりました。

(3)医療的なケアが必要な方の作成事例

本人の心身の状況	☐ 要介護 ☐ 難病 ☐ 身体障害 ☒ 人工呼吸器 ☐ 精神障害 ☐ その他 ☐ 知的障害	避難先	☐ 親族・知人宅 ☐ 福祉避難所 ☐ 市が開設する避難場所 ☐ 自宅(階) ☒ その他
自宅の災害危険性	☐ 土砂災害 ☒ 洪水 ☐ 高潮 ☐ 津波	参加者	☐ 本人 ☒ 行政職員 ☒ 家族 ☒ 地域住民 ☒ 福祉専門職 ☒ その他

事例1-3-2

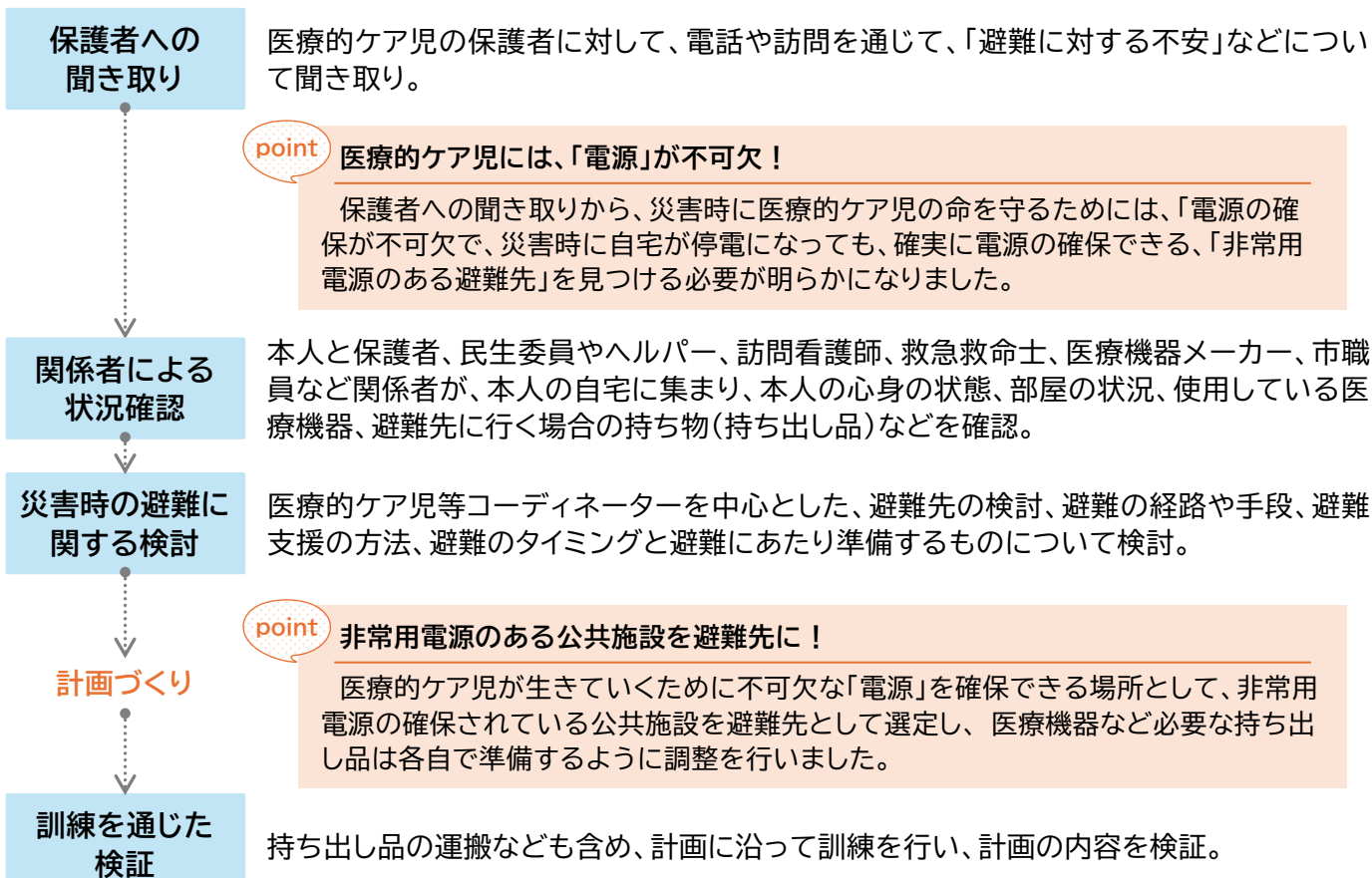
電源確保を優先した計画づくり (佐賀県武雄市)

日頃から医療機器を使い電源を不可欠としている医療的ケア児が、災害時でも安全に生活でき、かつ確実に電源を確保できる避難先に避難できるように、医療的ケア児等コーディネーターによる調整のもと、避難支援関係者も参加して、実効性のある計画づくりを行いました。

取組の内容

医療的ケア児が必要とする支援やサービスについてよく知り、またそのサービスを提供するための調整をすることのできる市の医療的ケア児等コーディネーターが関係機関と連携し、「医療的ケア児の保護者への聞き取り」と避難支援に係る「関係者による状況確認」、「避難に関する検討」を実施し、実効性のある計画を作成しました。

<取組の流れ>



取組による効果

◆ 日頃から関係する人が、できる支援を行う体制づくり！

確認や検討の機会を通じて、日頃、訪問するヘルパーや訪問看護師などが、大雨になりそうなときは、早めに医療的ケア児の自宅に行くことも想定して、避難準備を支援するなどの体制づくりが行われるようになりました。

(3)医療的なケアが必要な方の作成事例

本人の心身の状況	☐ 要介護 ☐ 難病	☒ 身体障害 ☐ 人工呼吸器	☐ 精神障害 ☐ その他	☐ 知的障害	避難先	☐ 親族・知人宅 ☐ 福祉避難所	☐ 市が開設する避難場所 ☒ 自宅(5階)	☐ その他
自宅の災害危険性	☐ 土砂災害 ☐ 洪水	☒ 高潮 ☐ 津波			参加者	☐ 本人 ☒ 行政職員	☒ 家族 ☒ その他	☐ 地域住民 ☐ 福祉専門職

事例1-3-3

在宅避難を前提とした計画づくり (令和6年度・中区)

日常的に輸液ポンプを使用する医療的ケア児が、災害時でも安全を確保できるよう、関係者で協議を行い、在宅避難を前提に薬剤の確保等を検討し、実効性のある計画づくりを行いました。

取組の内容

医療的ケア児と保護者に対して、医療的ケア児・者コーディネーターや市職員(保健師)など複数の関係者で2度にわたり訪問を実施し、在宅避難を前提とした実効性のある計画を作成しました。

<取組の流れ>

保護者への聞き取り

医療的ケア児の保護者に対して、事前に、災害時の不安や現在の備えについて聞き取りを行いました。計画作成にあたり、薬剤の確保や代替手段等、注意事項などの検討のため、かかりつけ薬局の協力が必要なことがわかりました。

関係者による訪問

保護者、かかりつけ薬局、市職員、医療的ケア児・者コーディネーターなど関係者が、本人の自宅に集まり、本人の心身の状態、部屋の状況、使用している医療機器、必要な備蓄、避難先に行く場合の持ち物(持ち出し品)などについて情報を共有しました。

在宅避難に必要な備蓄や連携先を確認し、どのような場合に避難すべきか、避難する場合の避難先、避難にあたり準備するものについて検討。個別避難計画に落とし込みました。

計画づくり

point 在宅避難を前提に！

浸水想定区域ではあるものの、堅牢なマンションの上階であるため、自宅に留まることを前提とした計画を作成しました。



家族への聞き取りの様子

部分的な訓練

備蓄や持ち出し品の確認、薬局で導入しているLINEのサービス※による情報伝達訓練などを行いました。

※ 平時からの処方箋送信や服薬相談等をオンラインで行えるもの

取組による効果

◆ 災害時の心配ごとを解消！

災害時には基本的に避難する必要がないことを確認し、保護者の心配ごとである薬剤の手配等について、**かかりつけの薬局と話し合う**きっかけとなりました。また、いざという時に備え、薬局との連絡手段として、電話やLINEなどを複数備えておくことができました。

(3)医療的なケアが必要な方の作成事例

本人の心身の状況	☐ 要介護 ☒ 難病 ☒ 身体障害 ☐ 人工呼吸器 ☐ 精神障害 ☐ その他 ☒ 知的障害	避難先	☐ 親族・知人宅 ☒ 福祉避難所 ☒ 市が開設する避難場所 ☐ 自宅(階) ☐ その他
自宅の災害危険性	☐ 土砂災害 ☐ 洪水 ☒ 高潮 ☒ 津波	参加者	☐ 本人 ☒ 家族 ☐ 地域住民 ☐ 福祉専門職 ☒ 行政職員 ☒ その他

事例1-3-4

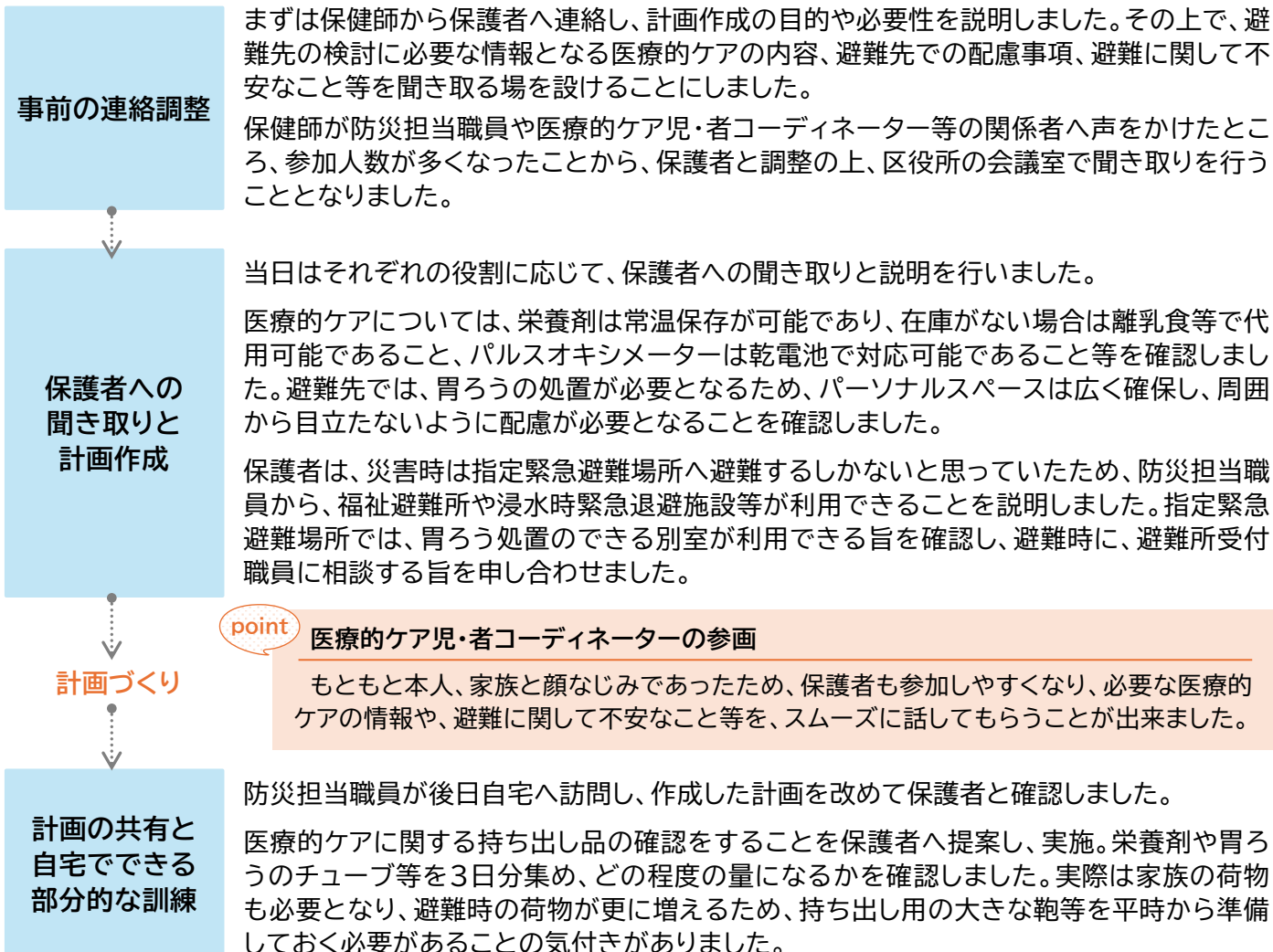
医療的ケア児・者コーディネーターの参画による計画づくり(令和6年度・南区)

医療的ケア児・者コーディネーターの参画のもと、胃ろうが必要な児の避難先の検討と、自宅でできる簡単な訓練を行いました。

取組の内容

医療的ケアを必要とする避難行動要支援者に対して、保護者と関係者で集まり、避難先を検討して計画作成を行い、後日自宅で、避難の際に必要な医療的ケアに関する持ち出し品の確認訓練を行いました。

<取組の流れ>



取組による効果

◆ 保護者の不安が軽減し、避難の実効性が高まった！

保護者は当初、どの災害でも指定緊急避難場所に避難するしかないと思っていましたが、防災担当職員の説明により、災害の種別に応じて避難場所の開設状況が異なることを理解し、**避難先の選択肢を増やす**ことができました。また、指定緊急避難場所では別室が利用できる想定であるため、配慮されたスペースで医療的ケアが実施できることが分かり、**保護者の不安が軽減**しました。

(3)医療的なケアが必要な方の作成事例

本人の心身の状況	☐ 要介護 ☐ 難病 ☒ 身体障害 ☐ 人工呼吸器 ☐ 精神障害 ☐ その他 ☒ 知的障害	避難先	☐ 親族・知人宅 ☒ 福祉避難所 ☐ 市が開設する避難場所 ☒ 自宅(2階) ☐ その他
自宅の災害危険性	☐ 土砂災害 ☒ 洪水 ☐ 高潮 ☐ 津波	参加者	☒ 本人 ☒ 家族 ☐ 地域住民 ☐ 福祉専門職 ☒ 行政職員 ☒ その他

事例1-3-5

停電時の対応に必要な情報を踏まえた計画づくり(令和6年度・安佐南区)

複数の医療機器を使用しており、電源が途絶した際、速やかに電源を確保する必要があるため、各医療機器のバッテリー稼働時間を確認し、避難先について検討しました。

※ 医療機器を蓄電池へ接続していますが、非常用電源(蓄電池等)に関しては、医療機器への接続を保証されていない製品が多数あります。緊急かつやむを得ない場合の自衛手段として、自己責任での使用となる点をご留意ください。

取組の内容

経管栄養、酸素療法、血糖測定、吸入などの電力の必要な医療機器を使用しているため、内部バッテリーでの稼働時間を確認し、避難先の検討をしました。また、医療機器事業者の指導のもと、蓄電池との接続確認も行いました。

<取組の流れ>

保護者への聞き取り

事前に区役所で、医療的ケアの内容や電力が必要な医療機器、常備していた蓄電池の情報、現在考えている避難先等について聞き取りを実施しました。

内服薬や栄養剤は災害時のことを想定し、1週間分多く処方してもらっていますが、冷蔵保存が必要な薬剤があり、停電時の服薬継続に不安がありました。また、蓄電池の使用法や医療機器の電力維持可能時間等が不明でした。

point

担当薬剤師に確認

後日、保健師が担当の薬剤師へ冷蔵保存が必要な薬剤の停電時の服薬継続について確認し、薬剤師から保護者へ説明していただくよう依頼しました。

後日自宅を訪問し、各医療機器の通常の使用頻度と内部バッテリーでの稼働時間を確認しました。内部バッテリーの稼働時間が分からない医療機器については、その場で医療機器事業者へ連絡して確認しました。今まで使用したことのない蓄電池については、保護者と医療機器事業者の了承のもと、試験的に接続を実施し、正常に作動することを確認しました。内部バッテリーと蓄電池を合わせて、1~2日程度は電力維持が可能であることが分かりました。

point

医療機器事業者にその場で確認

正確な内部バッテリー稼働時間を把握することができ、それをもとに、より現実的な避難先を検討することができました。



蓄電池へ接続した酸素モニター

自宅でできる部分的な訓練と計画作成

当初自宅と市外の親族宅を避難先として検討していましたが、市外への移動は長距離となり危険であるため、より近距離にある非常用電源を備えた福祉避難所への避難の方が現実的と判断し、避難先の候補に追加することにしました。

防災担当職員が保護者へ福祉避難所の環境や利用する際の手続きについて説明しました。後日、福祉避難所へ施設の見学と電源確保の相談に行くことにしました。

計画づくり

取組による効果

◆ 停電への備えが十分であるか確認！

1~2日程度、内部バッテリーと蓄電池で対応可能であることが分かりました。これにより停電が長期化する場合の動きについて、**現実的に検討することができ**、追加で必要な備えについても検討するきっかけとなりました。

2. その場でできる確認訓練の実施ガイド

その場でできる確認訓練

確認訓練は、移動せずにその場でできる訓練です。家族や支援者などの身近な人と一緒に、いつでも、どこでも取り組むことができます。

● 避難の呼びかけ確認訓練

訓練の内容

避難情報や避難のタイミングについて支援者から本人に連絡し、避難の呼びかけ体制を確認します。

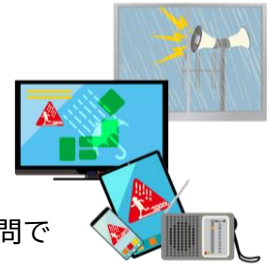
<訓練の流れ> ※所要時間:約10分

避難のきっかけとなる情報確認

訓練前に、本人と支援者で、気象情報や被害情報などの避難判断に必要な情報を確認。

支援者が避難の呼びかけ

避難情報の発令を想定し、支援者による本人への電話連絡や個別訪問で避難を呼びかけ。支援の内容や避難のタイミングなどについて確認。



● 持ち出し品の確認訓練

訓練の内容

持ち出し品を準備するとともに、資器材の点検や使い方の確認を行います。

<訓練の流れ> ※所要時間:約15分

持ち出し品の準備

必要な資器材や備品、身の回りの物などを確認しながら、持ち出し品として準備。

資器材の点検・使い方の確認

ラジオや懐中電灯等の持ち出し品が使える状態にあるか点検するとともに、医療機器や車いすなどの資器材を本人や家族、支援者が適切に利用できるよう、使い方を確認。



● 地図上での避難経路の確認訓練

訓練の内容

ハザードマップ上で避難経路などを確認しながら、必要事項を書き込み、関係者間で共有します。

<訓練の流れ> ※所要時間:約15分

ハザードマップ上での確認

ハザードマップを見ながら、避難経路や危険箇所、支援の流れなどを確認、書き込み。

本人・支援者で情報共有

避難経路や危険箇所などについて書き込んだハザードマップをもとに、本人や家族、支援者間で情報共有。



3. 訓練実施に関する事例

(1)部分的な訓練事例

事例3-1-1:ベッドから玄関までの移動(高知県黒潮町)	26
事例3-1-2:玄関先までの移動(熊本県御船町)	27
事例3-1-3:自宅上層階への移動(南区)	28
コ ラ ム :地域の要支援者への理解を高めるための工夫(安佐北区・南区)	29

(1)部分的な訓練事例

本人の心身の状況	☐ 要介護 ☐ 身体障害 ☐ 精神障害 ☐ 知的障害 ☐ 難病 ☐ 人工呼吸器 ☐ その他	避難先	☐ 親族・知人宅 ☐ 市が開設する避難場所 ☐ 福祉避難所 ☐ 自宅(階) ☐ その他
自宅の災害危険性	☐ 土砂災害 ☐ 洪水 ☐ 高潮 ☐ 津波	参加者	☒ 本人 ☒ 家族 ☒ 地域住民 ☐ 福祉専門職 ☒ 行政職員 ☐ その他

事例3-1-1

ベッドから玄関までの移動（高知県黒潮町）

避難訓練に「参加できない」高齢者に対しても、避難をあきらめずに行動してもらえるように、高齢独居の全世帯に対して、まずは寝室などの居所から玄関先まで避難する移動訓練に取り組みました。

訓練の内容

ベッドから起き上がって玄関先に避難するまでの移動訓練を実施し、家の中の危険箇所や必要な防災対策について確認・説明しました。

<訓練の流れ> ※所要時間：約20分

準備

特別な準備はない。訓練実施日時のみ調整する。

Start!

ベッドから
起き上がる

地域の支援者が見守る中で、訓練開始の合図をもとに、日頃の居場所であるベッドから起き上がる。

point

家の中で完結する訓練の実施！

起き上がるのがやっとの高齢者でも参加できるよう、ベッドから起き上がり、玄関に出るだけの訓練に参加してもらいました。



当日

玄関先まで
移動

寝室などの部屋の外に出て玄関先に移動、くつを履く。

Goal!

point

家の中の危険箇所の発見！

訓練を通して、玄関で靴を履く際に靴箱を支えにしているが、固定されていないため、危険性があることが明らかになりました。

危険箇所の
確認

玄関や家具等の危険な箇所を確認し、ふりかえり。

必要な対策について説明

家具固定やガラス飛散防止対策など、家の中の防災対策を行う必要性について説明。

訓練による効果

◆ (本人)避難をあきらめずに行動する意識を持てた

通常の避難訓練に「参加できない」高齢者にとっては、地域に見捨てられていないと感じることができ、**避難をあきらめずに行動するという意識の回復**につながりました。

◆ 支援者が「玄関先まで移動してくれれば支援できる」という思いを再認識

支援者にとっては、避難支援のために家の中まで入ることにハードルを感じている場合でも、**玄関先まで移動してくれれば避難支援できるという思いを再認識**することができました。

(1)部分的な訓練事例

本人の心身の状況	☐ 要介護 ☐ 身体障害 ☐ 精神障害 ☐ 知的障害 ☐ 難病 ☐ 人工呼吸器 ☐ その他	避難先	☐ 親族・知人宅 ☐ 市が開設する避難場所 ☐ 福祉避難所 ☐ 自宅(階) ☐ その他
自宅の災害危険性	☐ 土砂災害 ☐ 洪水 ☐ 高潮 ☐ 津波	参加者	☒ 本人 ☒ 家族 ☒ 地域住民 ☐ 福祉専門職 ☒ 行政職員 ☐ その他

事例3-1-2

玄関先までの移動（熊本県御船町）

初めての避難訓練として、自宅から避難先までのうち、玄関先までの移動に絞った訓練を実施し、計画を検証しました。

訓練の内容

作成した計画をもとに動作の確認や避難の声かけを行い、玄関から少し離れた場所まで移動して、持ち出し品の中身を確認しました。

<訓練の流れ> ※所要時間:約30分

準備

特別な準備はない。訓練実施日時のみ調整する。

避難準備

民生委員が本人の自宅を訪問し、訓練準備の声かけ。

point 民生委員の合図により、本人・家族が訓練！

日頃から本人と関わりのある民生委員が自宅を訪問することで、本人や家族が安心して訓練に取り組むことができました。



玄関先に出るまで移動



自宅から少し離れた場所まで移動

Start!

動作確認・ 支援者が声かけ

計画をもとに、玄関先に出るまでの動作を確認、支援者が声かけ。

point できることから少しずつ目標設定！

初めての避難訓練であることを考慮し、まずは「玄関先に出る」ことを目標に、民生委員が確認しながら、避難の動作確認・声かけ等を行いました。

玄関先まで 移動

避難時の持ち出し品を準備し、支援者である家族とともに、自宅の中から玄関先まで移動。

避難時の 持出品の確認 Goal!

自宅から少し離れた場所で、持参した持出品の中身を確認。

point 事前に持出品への意識を共有！

計画作成時に地域調整会議の際に持ち出し品を確認していたため、本人自らいつ出かけても良いように準備することができました。

訓練による効果

◆ (本人)避難時の持ち出し品や避難準備について実際に確認できた

作成した計画をもとに、避難時の持ち出し品の確認や避難の声かけなど、移動の流れを確認でき、避難準備について計画を検証することができました。

(1)部分的な訓練事例

本人の心身の状況	☒ 要介護 ☐ 難病	☐ 身体障害 ☐ 人工呼吸器	☐ 精神障害 ☐ その他	☐ 知的障害	避難先 ☐ 親族・知人宅 ☐ 福祉避難所	☐ 市が開設する避難場所 ☒ 自宅(上層階) ☐ その他
自宅の災害危険性	☐ 土砂災害 ☐ 洪水	☒ 高潮 ☒ 津波			参加者 ☒ 本人 ☒ 行政職員	☒ 家族 ☒ 地域住民 ☒ 福祉専門職 ☐ その他

事例3-1-3

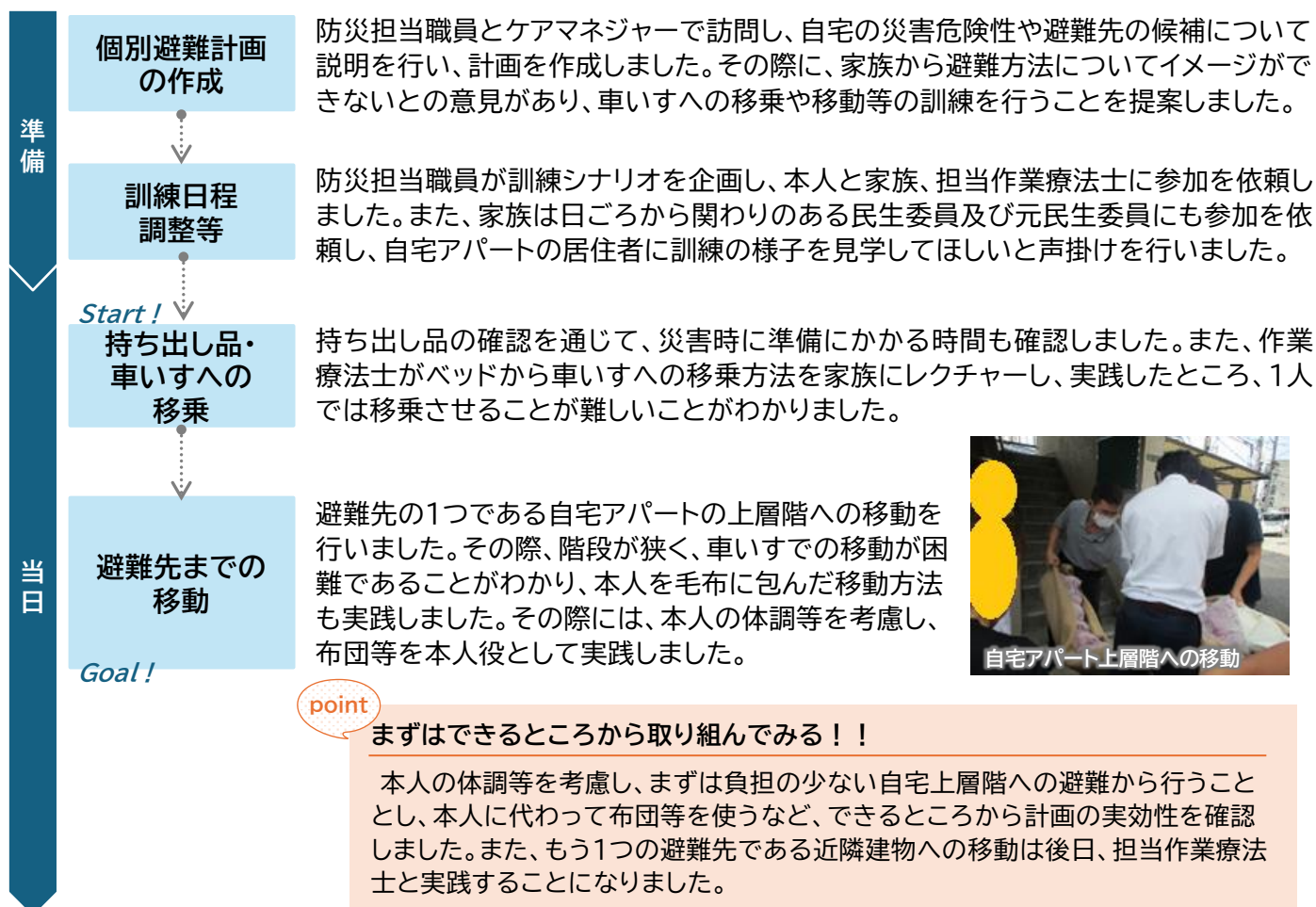
自宅上層階への移動(令和6年度・南区)

福祉専門職の参画により計画を作成した後、地震に伴う津波からの避難を想定し、ベッドから車いすへの移乗方法の確認を行うとともに、まずは避難先の候補の一つである自宅アパート上層階への移動を行いました。

訓練の内容

ベッドから車いすへの移乗方法の確認や避難先への移動を実践して課題を確認し、他の移動方法を検討しました。

<訓練の流れ> ※所要時間:約90分(事前準備:3週間)



訓練による効果

◆ 防災意識の向上！！

訓練を通じて、作業療法士が災害時に備えて家族ひとりでも移乗できる方法を模索し、もう1つの避難先である近隣建物への移動を後日行うことにするなど、**日ごろから防災意識をもって関わり合う**きっかけとなりました。

また、訓練に参加した民生委員から「災害時には自分たちも協力しないといけない」という意見も出るなど、福祉専門職のみならず**地域の防災意識の向上**につながりました。

地域の要支援者への理解を高めるための工夫

地域の施設職員が車いすの操作方法等をレクチャー！（令和6年度・安佐北区）

<経緯>

市の開設する避難場所に車いすの方が避難された際に介助方法がわからず、もどかしさを感じていた地域の自主防災組織に対し、区役所が、訓練で福祉専門職に講師を依頼することを提案しました。

その後、自主防災組織から地域の福祉施設に声を掛け、施設職員を講師に依頼しました。

福祉専門職の参加によって…

地域全体で要支援者を支える意識ができた！

訓練では施設職員が地域住民に車いすの操作やベッドへの移乗方法をレクチャーしました。参加者は要支援者と介助者の役を交代で体験し、介助方法だけでなく、要支援者の感覚や視点も学ぶことができました。**地域住民全体を対象にレクチャーを行うことで、要支援者の家族など特定の支援者だけでなく地域全体で要支援者を支援する体制を構築するきっかけになりました。**

point

市の補助金も利用可能

広島市では、自主防災組織に対して防災訓練で使用する物品等の購入等に必要費用を補助する補助制度を整備しています。

この訓練では利用していませんが、要支援者が参加する訓練を行う際は、ケアマネジャーなどの福祉専門職・医療関係者に対する謝礼も補助金の対象となるため、活用をご検討ください。



車いすからベッドへの移乗

地域住民が要支援者役で参加！（令和6年度・南区）

<経緯>

この学区では、地域主催の防災訓練（防災フェア）で、避難行動要支援者の支援を要素として取り入れることとしていますが、避難行動要支援者の参加が難しい場合には、地域住民がシミュレーションのために要支援者役として参加しています。

当日は、要支援者役が車いすに試乗し、他の地域住民が支援者役となって、避難先となる会場までの移動を支援します。

代役の参加によって…

バリアフリーや防災に対する意識が高まる！

実際に人が乗った車いすを押す体験自体が初めての方も多く、**基本的な操作方法などを知る**きっかけになります。また、普段歩いている時には気づかなかった、道路の凹凸や塀や水路などの**危険性に気付く**きっかけにもなります。



避難先への移動

3. 訓練実施に関する事例

(2)避難先までの移動訓練事例

事例3-2-1:「ひなんさんぽ」による避難先までの移動(愛知県岡崎市)	32
事例3-2-2:介護タクシーによる避難先までの移動(安佐南区)	33
事例3-2-3:車いすによる移動(広島市)	34
事例3-2-4:福祉専門職のアドバイスを活かした避難先までの移動(東区)	35
事例3-2-5:地域で設定した避難場所(ホテル)までの移動【補助金等活用】(東区)	36
コ ラ ム :参加しやすくするための工夫(高知県黒潮町・安佐北区)	37
参 考 :活用可能な広島市等の制度について	38

(2)避難先までの移動訓練事例

本人の心身の状況	☐ 要介護 ☐ 身体障害 ☐ 精神障害 ☐ 知的障害 ☐ 難病 ☐ 人工呼吸器 ☐ その他	避難先	☐ 親族・知人宅 ☐ 市が開設する避難場所 ☐ 福祉避難所 ☐ 自宅(階) ☐ その他
自宅の災害危険性	☐ 土砂災害 ☐ 洪水 ☐ 高潮 ☐ 津波	参加者	☒ 本人 ☒ 家族 ☒ 地域住民 ☐ 福祉専門職 ☒ 行政職員 ☐ その他

事例3-2-1

「ひなんさんぽ」による避難先までの移動(愛知県岡崎市)

本人や支援者の負担が少なく計画の実効性を確認することを基本として、避難先まで移動することに限定した「ひなんさんぽ」に取り組みました。

※「ひなんさんぽ」とは、要支援者とともに、計画で定めた避難施設まで移動することに留めた、岡崎市の取組です。

訓練の内容

本人の体調や天気等の状況を確認の上、自宅から避難先まで散歩しました。

<訓練の流れ> ※所要時間:約30分

準備

特別な準備はない。訓練実施日時のみ調整する。

本人の体調・
天気等の確認

当日の本人の体調や天気等の状況を確認し、散歩が可能かどうかを判断。体調がすぐれない場合は無理せず、改めて日程を調整。

point 天気が良い日に実施！

天気予報を確認の上、天気が良い日を選んで実施することで、前向きに楽しく取り組むことができ、本人と支援者のコミュニケーションも取りやすくなります。地域内を歩きながら、新たな発見や気付きも生まれます。

当日

Start! ↓

避難先まで
散歩

Goal!

計画をもとに、自宅から避難先まで散歩しながら移動。散歩中は、近隣住民などの支援者と本人とで雑談する等、コミュニケーションを図る。

point “訓練”という形式にこだわらず、計画の実効性の確保にポイントを限定！

「避難訓練」と聞くと敷居が高く、大変だと思われがちのため、まずは計画に定めた避難先まで移動することに焦点を当て、本人と支援者として「散歩」することから始めることで、避難の実効性を高めます。

避難先まで
距離がある場合は、
「ドライブ」でも！



自宅から避難先まで歩いて移動

訓練による効果

◆ 本人と支援者の関係づくりができた

ゆっくりとした散歩を通じて、**円滑にコミュニケーション**を取ることができ、本人と支援者の関係性が深まりました。

(2)避難先までの移動訓練事例

本人の心身の状況	☐ 要介護 ☐ 難病	☒ 身体障害 ☐ 人工呼吸器	☐ 精神障害 ☐ その他	☐ 知的障害	避難先	☐ 親族・知人宅 ☐ 福祉避難所	☐ 市が開設する避難場所 ☐ 自宅(階) ☐ その他
自宅の災害危険性	☐ 土砂災害 ☐ 洪水 ☐ 高潮 ☐ 津波				参加者	☒ 本人 ☒ 行政職員	☒ 家族 ☒ 地域住民 ☐ 福祉専門職 ☐ その他

事例3-2-2

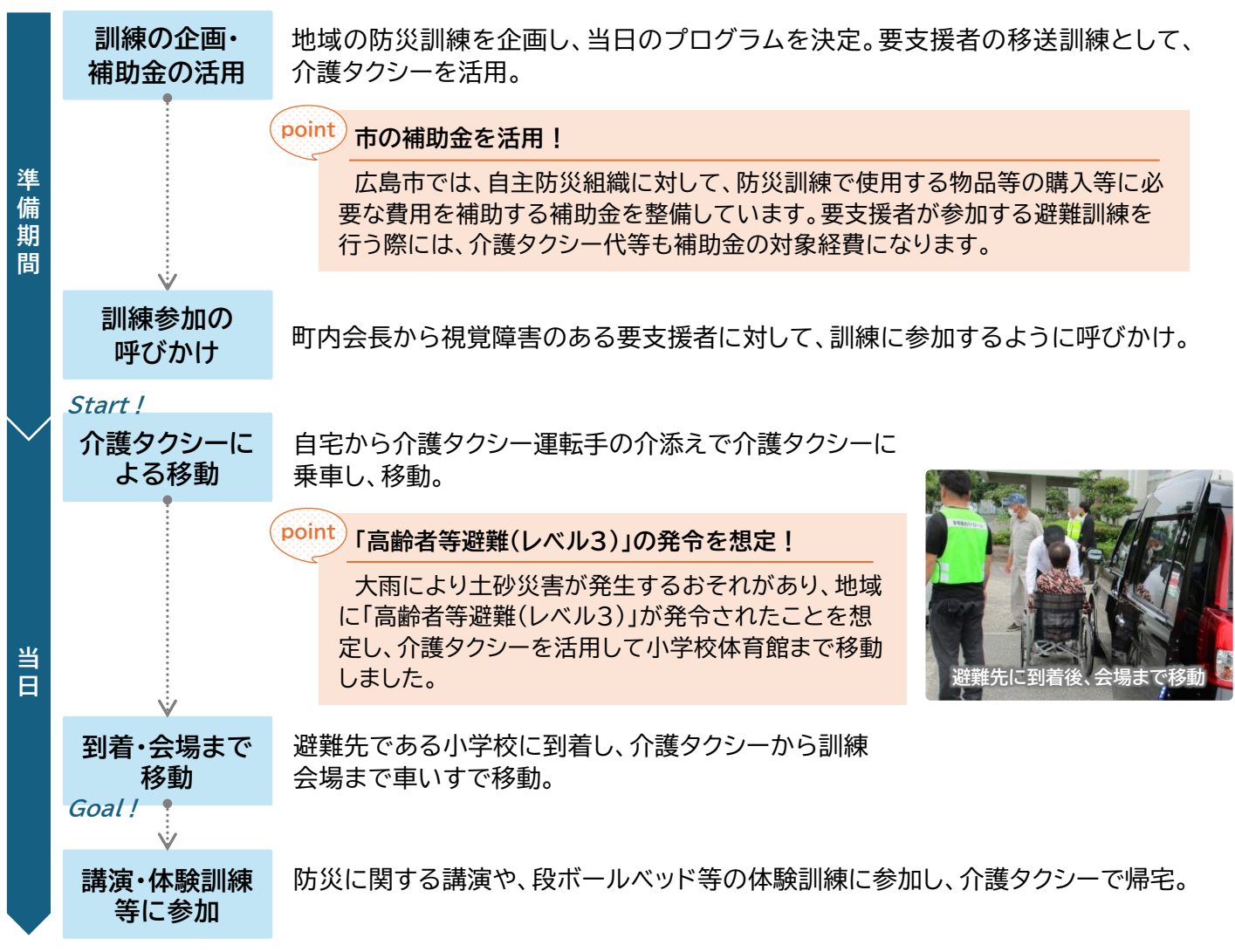
介護タクシーによる避難先までの移動 (令和5年度・安佐南区)

自主防災組織が、市の補助金を活用して実施した地域の防災訓練の一環として、本人が自宅から避難先まで介護タクシーで移動する訓練に取り組みました。

訓練の内容

市の補助金を活用した訓練を企画し、関係者と調整の上、介護タクシーを使って避難先まで移動しました。

<訓練の流れ> ※所要時間:約150分



訓練による効果

◆ 介護タクシーによる避難の可能性を探れた

避難手段の選択肢の一つとして、介護タクシーの利用を試すことで、計画作成に向けた検討のきっかけになりました。

(2)避難先までの移動訓練事例

本人の心身の状況	☐ 要介護 ☐ 難病	☒ 身体障害 ☐ 人工呼吸器	☐ 精神障害 ☐ その他	☐ 知的障害	避難先	☐ 親族・知人宅 ☒ 福祉避難所	☐ 市が開設する避難場所 ☐ 自宅(階) ☐ その他
自宅の災害危険性	☐ 土砂災害 ☒ 洪水	☐ 高潮 ☐ 津波			参加者	☒ 本人 ☒ 行政職員	☒ 家族 ☒ 地域住民 ☒ 福祉専門職 ☐ その他

事例3-2-3

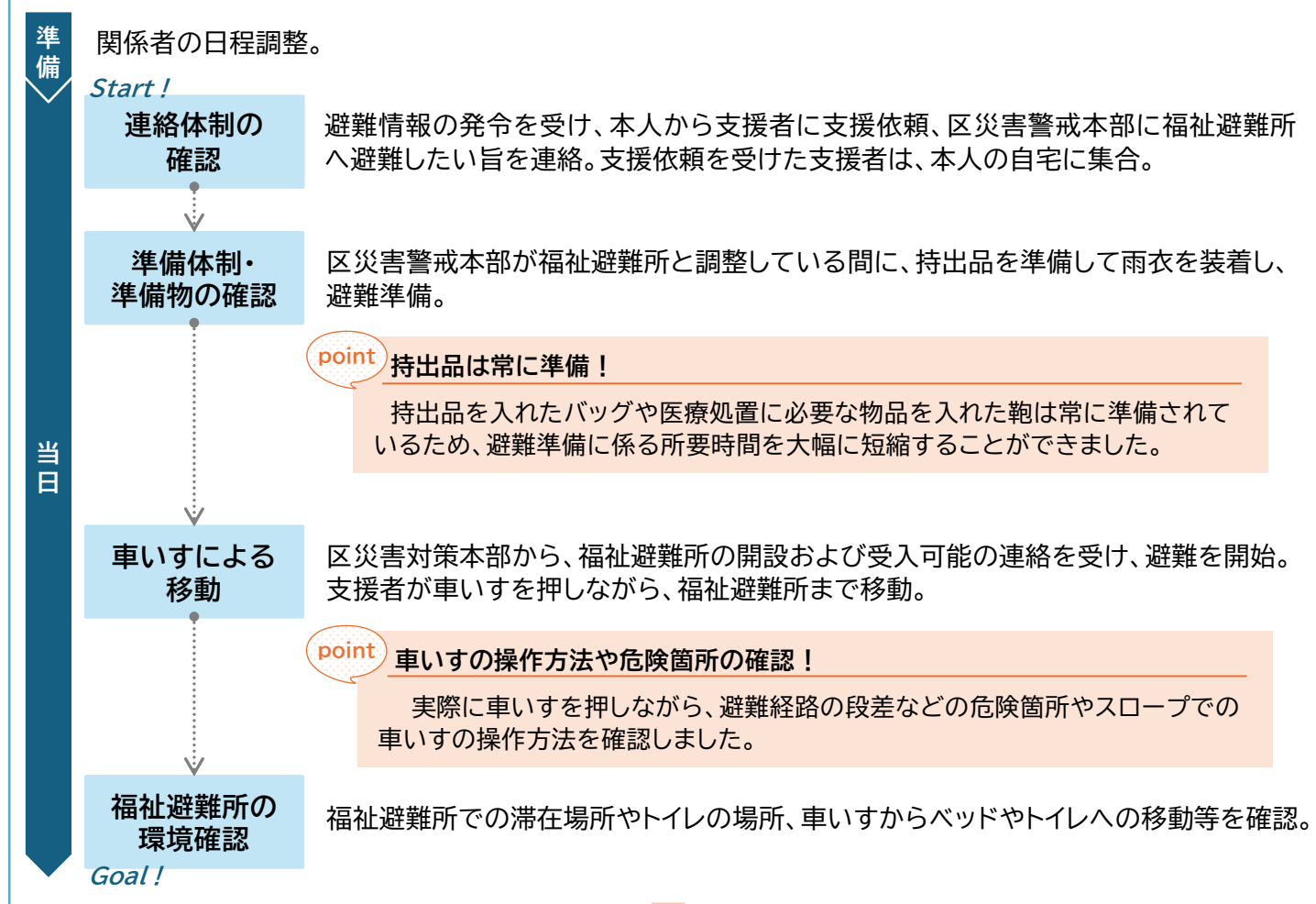
車いすによる移動（令和5年度・広島市）

車いすを使用している本人が、地域の支援者とともに避難先まで円滑に避難できるようにするため、訓練に取り組みました。

訓練の内容

連絡体制の確認の上、持出品を持って車いすで福祉避難所まで移動し、福祉避難所の環境を確認しました。

<訓練の流れ> ※所要時間:約150分



訓練による効果

◆（本人）福祉避難所でできることを理解し、ショートステイ利用の可能性も探れた

福祉避難所で受けることができる支援の範囲を確認でき、災害時の緊急入所やショートステイ利用などの活用を考える機会になりました。

◆（関係者）それぞれの役割を確認し、避難支援への認識合わせができた

福祉避難所となる施設等の関係者と支援者のそれぞれの役割と、必要な物品・器材を確認できました。また、避難支援に対する認識の違い等を明らかにできました。

(2)避難先までの移動訓練事例

本人の心身の状況	☒ 要介護 ☐ 難病	☒ 身体障害 ☐ 人工呼吸器	☐ 精神障害 ☐ その他	☐ 知的障害	避難先	☐ 親族・知人宅 ☒ 福祉避難所	☐ 市が開設する避難場所 ☐ 自宅(階) ☐ その他
自宅の災害危険性	☒ 土砂災害 ☐ 洪水 ☐ 高潮 ☐ 津波				参加者	☒ 本人 ☒ 行政職員	☒ 家族 ☐ 地域住民 ☒ 福祉専門職 ☐ その他

事例3-2-4

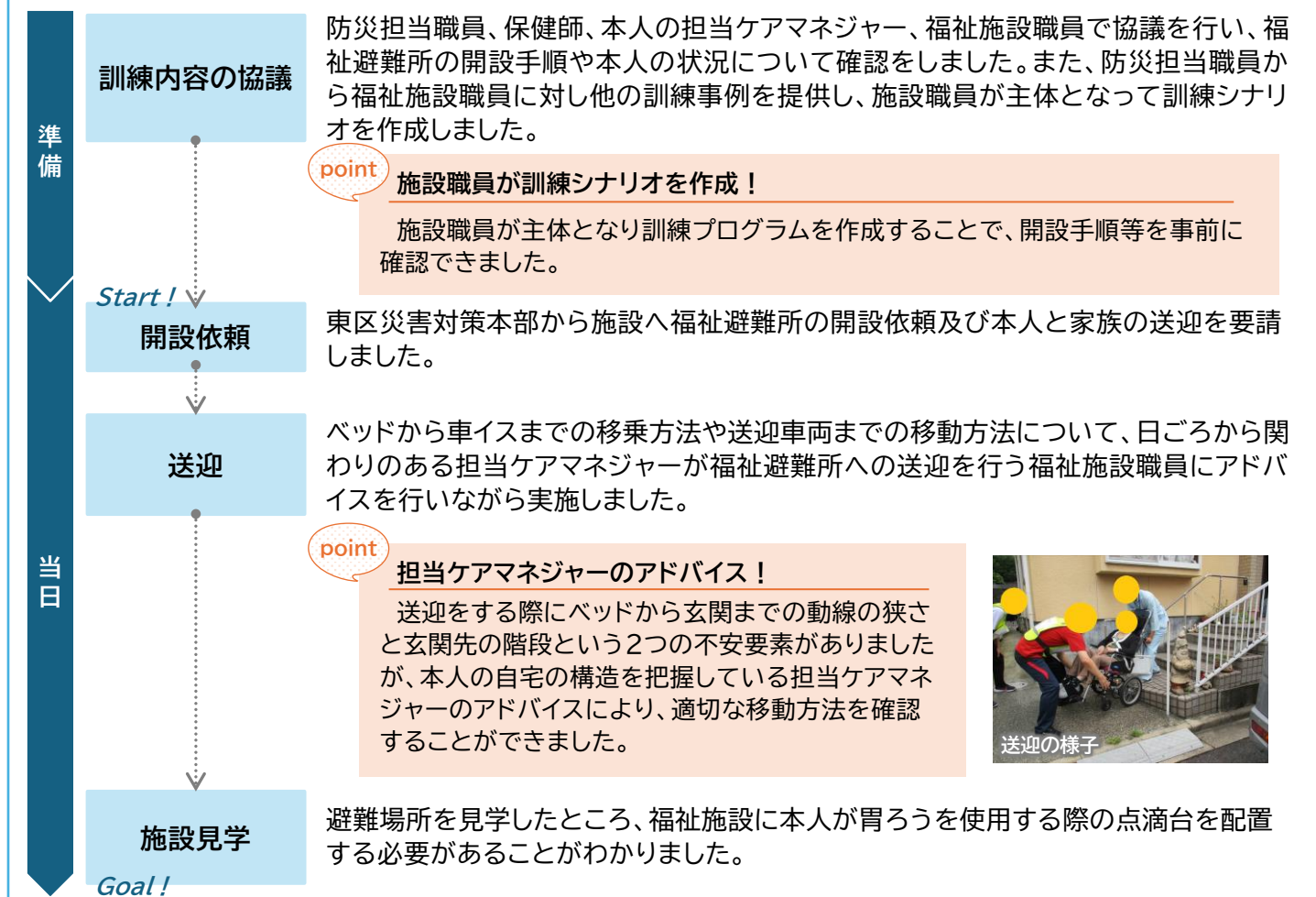
福祉専門職のアドバイスを活かした避難先までの移動(令和6年度・東区)

福祉避難所への直接避難の調整を行った際に、受け入れ体制の構築や本人と家族に避難場所の環境を知ってもらうために、施設側から、自宅からの移動訓練を実施してはどうかとの提案があり、福祉専門職から施設職員に避難する際のアドバイスをを行い、本人と家族が避難先についてイメージできたことで、実効性を高めることができました。

訓練の内容

福祉避難所の開設手順の確認や自宅から福祉避難所までの移動訓練に取り組み、避難場所を見学しました。

<訓練の流れ> ※所要時間:約120分(準備期間 2週間)



訓練による効果

◆ 実効性のある受け入れ体制を構築!

担当ケアマネジャーが訓練に参加し、施設職員に対して本人及び家族を送迎する際に移動方法等のアドバイスを行ったことにより、本人の自宅の構造を踏まえた送迎方法を確認できたことや避難場所を見学したことで必要な物を把握できたことから、**実効性のある受け入れ体制**を構築することができました。

家族は高齢者施設に対して良いイメージを持っていませんでしたが、実際に福祉避難所に行き見学したことで、施設に対するイメージが変わり、**避難について前向き**に捉えられるようになりました。

(2)避難先までの移動訓練事例

本人の心身の状況	☐ 要介護 ☐ 身体障害 ☐ 精神障害 ☐ 知的障害 ☐ 難病 ☐ 人工呼吸器 ☐ その他	避難先	☐ 親族・知人宅 ☐ 市が開設する避難場所 ☐ 福祉避難所 ☐ 自宅(階) ☐ その他
自宅の災害危険性	☐ 土砂災害 ☐ 洪水 ☐ 高潮 ☐ 津波	参加者	☒ 本人 ☐ 家族 ☒ 地域住民 ☐ 福祉専門職 ☒ 行政職員 ☐ その他

事例3-2-5

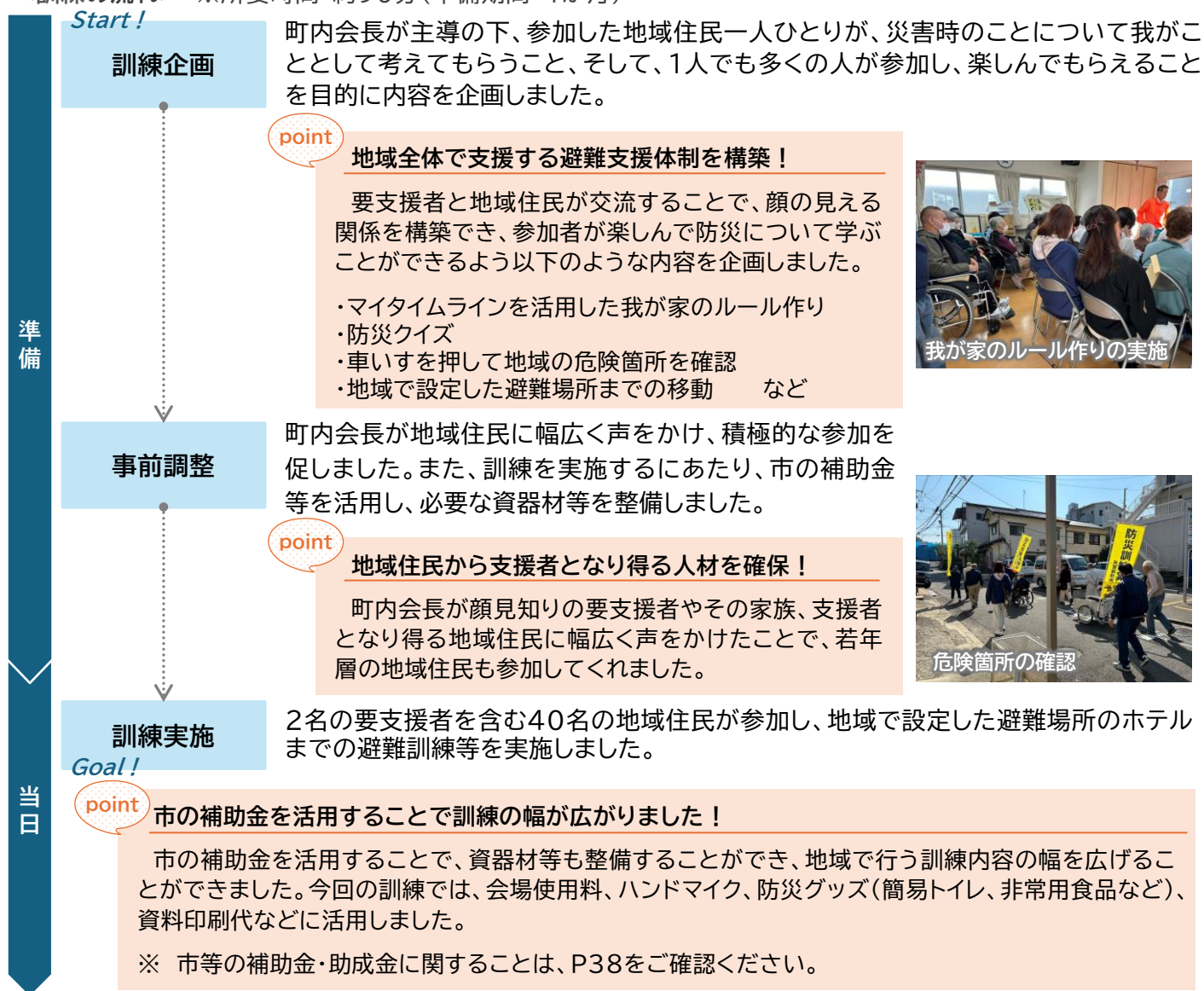
地域で設定した避難場所(ホテル)までの移動【補助金等活用】(令和5・6年度・東区)

地域の防災訓練において、地域全体で要支援者を支援していくため、要支援者と地域住民が交流する場を設け、顔の見える関係を構築することを目的に訓練を実施しました。また、訓練内容を充実させるため、市の補助金も活用しました。

訓練の内容

地域住民の防災意識を向上させることや、車いすの取扱い等を習得するなど地域の対応力を向上させ、要支援者を地域全体で支援する体制を構築することを目的に、町内会単位で避難訓練を実施しました。

<訓練の流れ> ※所要時間:約90分(準備期間 1か月)



訓練による効果

◆地域住民が要支援者と交流することで、顔の見える関係を構築し、地域全体の防災力が向上しました!

地域住民が要支援者と顔の見える関係を築き、防災や支援に関する知識を身に付けることで、要支援者の家族など特定の支援者だけでなく、地域全体で要支援者を支援する体制を構築することができました。また、要支援者本人やご家族の避難に対する不安も払拭できました。

参加しやすくするための工夫

“おためし”避難で気軽に訓練！（高知県黒潮町）

<訓練実施以前の状況>

計画を作成して終わりとなっている方や、避難に対する本人の意識が必ずしも高くない方がいました。



おためし避難によって…

参加へのハードルが下がり、参加しやすくなった！

名称を「避難訓練」ではなく「おためし避難訓練」にしたことで、**本人が参加しやすくなり**、避難にかかる時間を体感できたり、避難経路の危険箇所を見つけることができました。

実効性の検証および防災意識の向上につながりました。



お試し避難の様子

民生委員と連携した参加の呼びかけ！（令和6年度・安佐北区）

<取組内容>

ある自主防災組織では、要支援者ごとに地域で支援者を決めています。

また、自主防災組織の役員が要支援者と日ごろから関わりのある**民生委員と一緒に**自宅を訪問して、地域の防災訓練への参加の呼びかけを行っています。



民生委員と一緒に呼びかけ
をすることで…

呼びかけやすく、参加しやすい！！

日ごろから本人と関わりのある民生委員と一緒に呼びかけることで、自主防災組織の役員も要支援者に対して訓練への**参加を呼びかけやすくなります**。また、地域で支援者を決めていることから、要支援者と地域との繋がりができているため、本人も**訓練へ参加しやすくなります**。

point

支援者について

新たに要支援者になった方がいる場合は、自主防災組織の役員会を開催して誰が支援者になるのかを検討しています。

point

すべての要支援者へ呼びかけ！

自治会に加入しているかどうかにかかわらず、地域に住んでいるすべての要支援者に訓練への参加を呼びかけています。

活用可能な広島市等の制度について

★ 以下2つの補助金・助成金は併用することが可能です。



広島市防災訓練補助金

広島市防災訓練補助金とは・・・

防災訓練で使用する物品等の購入等に必要な費用を補助するものです。

本市の小学校区単位で連合化された自主防災組織や、町内会・自治会単位で構成された自主防災組織等が実施する訓練が対象です。

point

災害から身を守るためには、防災訓練を通じて、災害時に危険を回避する行動や、避難所でのべき行動などを理解し、事前に体験しておくことが大切です。

この補助金を積極的に活用し、訓練内容を充実させるとともに、避難行動要支援者が参加する避難訓練を実施してみませんか。

なお、ケアマネジャーなどの介護等福祉専門職・医療関係者に対する謝礼金(要支援者と訓練に参加した場合に限る。)や、移動手段となる介護タクシー利用代金(要支援者と訓練参加のために乗車する場合に限る。)なども補助金の対象となります。



防災訓練の様子

詳しくは、右のQRコードを読み込んでいただくか、広島市ホームページトップ画面右上の検索窓に「1013435」を入力して検索していただくことができます。



※ 訓練補助金の詳細については、お住いの区の地域起こし推進課にご相談ください。

1013435

検索

ひろしまLMO運営助成金

ひろしまLMO運営助成金とは・・・

本市では、地域が主体となって設立した団体である広島型地域運営組織「ひろしまLMO」に対して、地域の実情に応じた様々な取組を継続的に支援しています。

「ひろしまLMO」が作成する事業計画に基づく地域の実情に応じた課題解決のための事業に要する経費に対して「ひろしまLMO運営助成金」を活用することができ、例として、地域の避難訓練等の防災活動にかかる費用に助成金を活用することができます。

point

広島型地域運営組織「ひろしまLMO(エルモ)」とは・・・

おおむね小学校区を活動範囲として、地区・学区社会福祉協議会や連合町内会・自治会等が中心となって、地域団体やNPO、企業など、多様な主体と連携しながら、地域課題の解決に取り組む団体であり、本市における共助の精神に基づく市民主体のまちづくりの基盤となる団体です。

「LMO: **L**ocal **M**anagement **O**rganization
(地域運営組織)の略。」

〈「ひろしまLMO」のイメージ図〉



※ 構成メンバーは地域の実情に応じて決定

ひろしまLMOを中心に多くの地域団体等と連携しながら、継続して防災活動に取り組み、地域全体で防災力向上を図りましょう。

※ 運営助成金の詳細については広島市社会福祉協議会に、「ひろしまLMO」づくりに関する内容の詳細についてはお住いの区の地域起こし推進課にお問い合わせください。

詳しくは、右のQRコードを読み込んでいただくか、広島市ホームページトップ画面右上の検索窓に「1008910」を入力して検索していただくことができます。



1008910

検索

3. 訓練実施に関する事例

(3) 医療的なケアが必要な方の訓練事例

事例3-3-1:ヘルパーによる介助方法のレクチャーを含めた訓練(中区)	40
事例3-3-2:関係者で検討を重ねて実施した医療的ケア児の訓練(佐伯区)	41
事例3-3-3:避難先の確認を兼ねた福祉避難所への移動訓練(南区)	42
事例3-3-4:停電時の人工呼吸器、酸素濃縮器の操作手順の確認訓練(安芸区)	43
事例3-3-5:在宅避難を前提に連絡体制を確認する訓練(中区)	44
事例3-3-6:市が開設する避難場所への移動訓練(中区)	45
コラム :本人の周囲の意識を向上するための工夫(佐賀県武雄市)	46

(3)医療的なケアが必要な方の訓練事例

本人の心身の状況	☐ 要介護 ☐ 難病	☒ 身体障害 ☒ 人工呼吸器	☐ 精神障害 ☐ その他	☒ 知的障害	避難先	☐ 親族・知人宅 ☐ 福祉避難所	☐ 市が開設する避難場所 ☐ 自宅(階) ☒ その他
自宅の災害危険性	☐ 土砂災害 ☐ 洪水	☒ 高潮 ☒ 津波			参加者	☒ 本人 ☒ 行政職員	☒ 家族 ☐ その他

事例3-3-1

ヘルパーによる介助方法のレクチャーを含めた訓練 (令和5年度・中区)

本人を担当している介護ヘルパーが訓練に参加し、本人の状態に合わせた介助方法を地域の支援者にレクチャーしながら、車いすへの移乗と移動を実践しました。

訓練の内容

ヘルパーが地域の支援者に介助方法などをレクチャーした上で、ベッドから車いすへの移乗を実践しました。また、避難先までの移動に本人は体調不良のため参加できませんでしたが、支援者が車いすを押して家族と避難先まで移動し、避難予定のスペースを確認しました。

<訓練の流れ> ※所要時間:約60分

準備

訓練実施日時を調整。

関係者による
避難行動の確認

地域の支援者とヘルパーが、本人の自宅に集まり、あらかじめ作成されていた「わたしのひなんシート」をもとに、心身の状況や避難先、避難方法などについて確認。

持出品の確認

避難にあたり本人の生命維持に不可欠な、呼吸器用バッテリー、予備バッテリー、アンビューバック、胃ろう器具、吸引器、酸素ボンベなどの持出品を確認。

Start!

介助方法の
レクチャー・実践

ヘルパーから地域の支援者に、本人の抱え方や車いすの動かし方など移乗方法及び留意点を説明し、ベッドから車いすへの移乗を実践。

point

ヘルパーによるレクチャー後、すぐに実践！

本人にとって望ましい介助方法を教わりながら、その場で実践することで、支援方法を身につけることができました。

車いすを押して
避難先まで移動

支援者が車いすを押しながら、本人の家族と一緒に避難先まで移動。

Goal!

point

本人不在でも、支援者が実際に車いすを押して避難先へ！

本人は体調不良のため参加できませんでしたが、支援者が車いすを押しながら避難先まで移動し、避難経路を確認しました。

訓練による効果

◆ 支援の方法を確認でき、支援にあたっての不安解消！

日ごろから本人の介助を行うヘルパーから、車いすを寄せる、足を持つなど、具体的な移乗方法を習い、また、本人の体型や状態に合わせた介助の仕方、できる範囲で介助を手伝えれば良いことなどを教えてもらうことで支援の具体的な方法がわかり、どう支援してよいかわからないという不安が解消されました。

◆ 訓練を踏まえ、避難行動の見直し

訓練により、避難先での滞在に不可欠な持ち出し品が多く、1回で持って行くのは困難なことがわかったため、緊急に避難する際は、常時必要な物などに限定して持ち出すこととし、本人の避難が完了した後に、状況を見て、家族が自宅に取りに戻ることにしました。

(3)医療的なケアが必要な方の訓練事例

本人の心身の状況	☐ 要介護 ☐ 難病	☒ 身体障害 ☒ 人工呼吸器	☐ 精神障害 ☐ その他	☒ 知的障害	避難先 ☐ 親族・知人宅 ☒ 福祉避難所	☐ 市が開設する避難場所 ☐ 自宅(階) ☐ その他
自宅の災害危険性	☐ 土砂災害 ☒ 洪水	☐ 高潮 ☒ 津波	参加者 ☒ 本人 ☒ 行政職員			
			☒ 家族 ☒ 地域住民 ☒ 福祉専門職 ☒ その他			

事例3-3-2

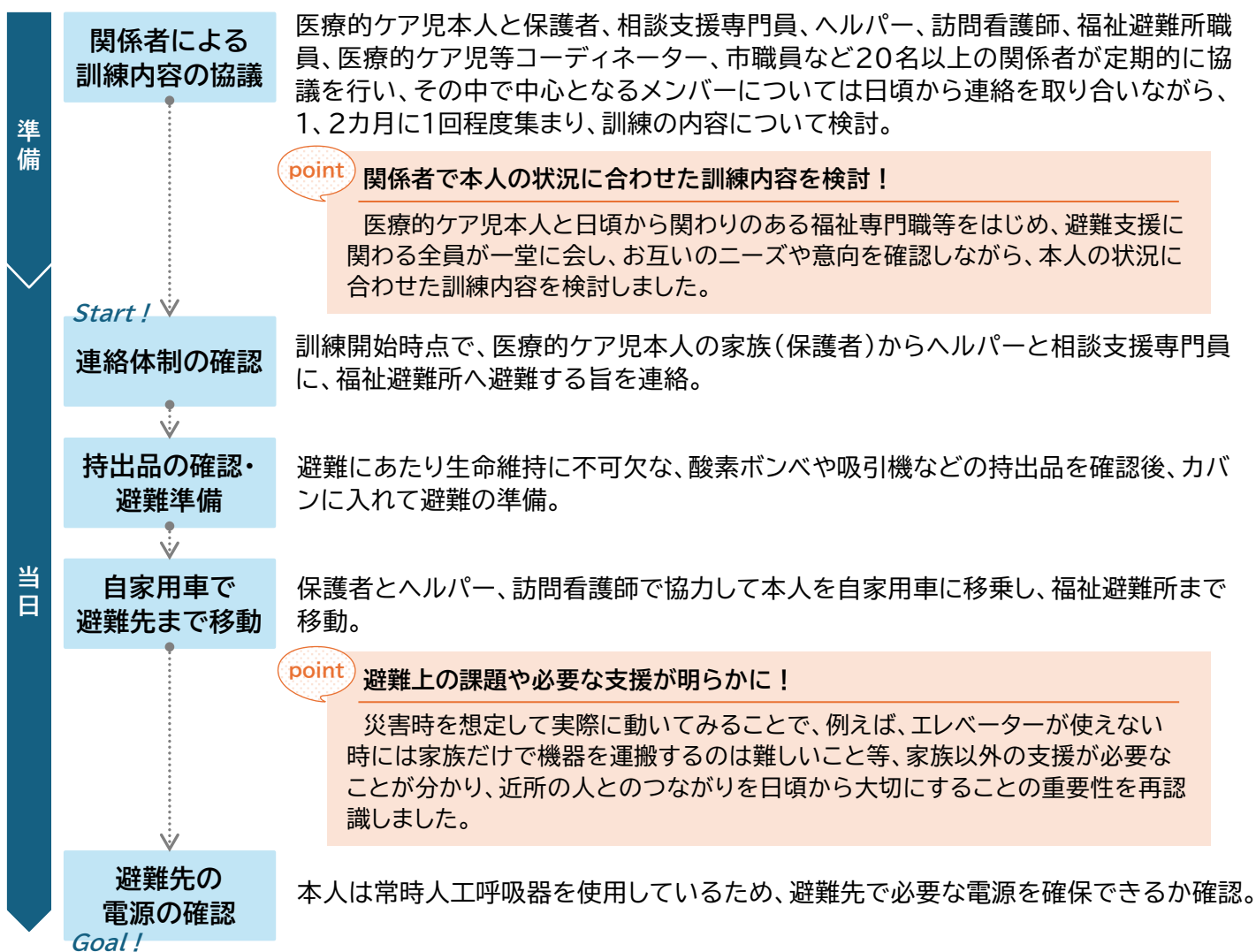
関係者で検討を重ねて実施した医療的ケア児の訓練 (令和5年度・佐伯区)

医療的ケア児本人とその家族が、停電などライフラインが途絶した場合を想定して必要な避難支援について検討するため、関係者が集まり協議し、訓練を行いました。

訓練の内容

事前に、関係者で協議を重ねた上で、福祉避難所への避難訓練を行い、連絡体制や持ち出し品、避難先への移動方法、避難先の環境等を確認しました。

<訓練の流れ> ※所要時間:約90分(準備期間:10カ月)



訓練による効果

◆ 関係者による緊密なコミュニケーションで、お互いの信頼関係を築けた

避難支援に関わる全ての関係者が、本人の心身の状況を理解し、災害時の支援方法などについて認識を合わせて訓練を行ったことで、本人の家族と関係者の間に信頼関係が築かれ、また、関係者間での連携意識が生まれて、平常時から相談し合える関係づくりができました。

(3)医療的なケアが必要な方の訓練事例

本人の心身の状況	☐ 要介護 ☐ 難病	☐ 身体障害 ☒ 人工呼吸器	☐ 精神障害 ☐ その他	☐ 知的障害	避難先 ☐ 親族・知人宅 ☒ 福祉避難所	☐ 市が開設する避難場所 ☐ 自宅(階) ☐ その他
自宅の災害危険性	☐ 土砂災害 ☐ 洪水	☒ 高潮 ☒ 津波			参加者 ☒ 本人 ☒ 行政職員	☒ 家族 ☐ 地域住民 ☒ 福祉専門職 ☐ その他

事例3-3-3

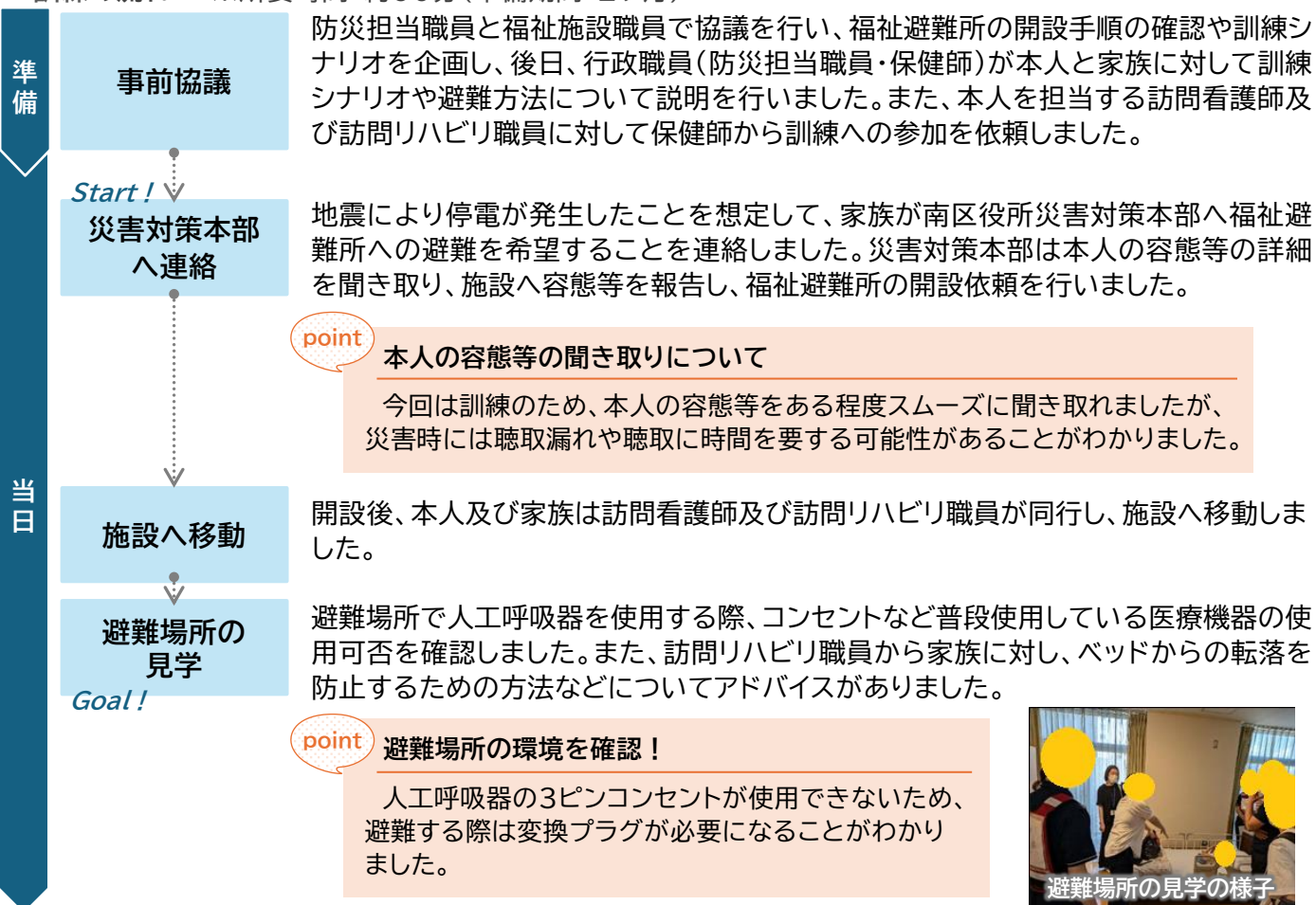
避難先の確認を兼ねた福祉避難所への移動訓練(令和6年度・南区)

地震による停電を想定し、人工呼吸器を使用している本人及び家族が自宅から福祉避難所への移動を実践しました。

訓練の内容

地震により自宅及びその周辺一帯が停電になることを想定し、停電区域外に所在している福祉避難所へ移動して、避難場所の環境を確認し、ベッドへの移乗を実践しました。

<訓練の流れ> ※所要時間:約60分(準備期間:2ヶ月)



訓練による効果

- ◆ 訓練を踏まえた持ち出し品の見直し
避難場所の環境を確認したことで、避難する際に必要な持ち出し品(人工呼吸器の3ピンコンセント)が不足していることがわかったため、**持ち出し品を見直す**ことができました。
- ◆ 要支援者の容態確認用のチェックリストを作成!!
災害時、災害対策本部が本人の容態等を聞き取る際にスムーズに対応するため、聴取すべき項目を予め**チェックリストにまとめておく**こととしました。

(3)医療的なケアが必要な方の訓練事例

本人の心身の状況	☐ 要介護 ☒ 難病 ☐ 身体障害 ☒ 人工呼吸器 ☐ 精神障害 ☐ その他 ☐ 知的障害	避難先	☐ 親族・知人宅 ☐ 福祉避難所 ☐ 市が開設する避難場所 ☐ 自宅(階) ☒ その他
自宅の災害危険性	☐ 土砂災害 ☒ 洪水 ☐ 高潮 ☐ 津波	参加者	☒ 本人 ☒ 家族 ☐ 地域住民 ☒ 福祉専門職 ☒ 行政職員 ☒ その他

事例3-3-4

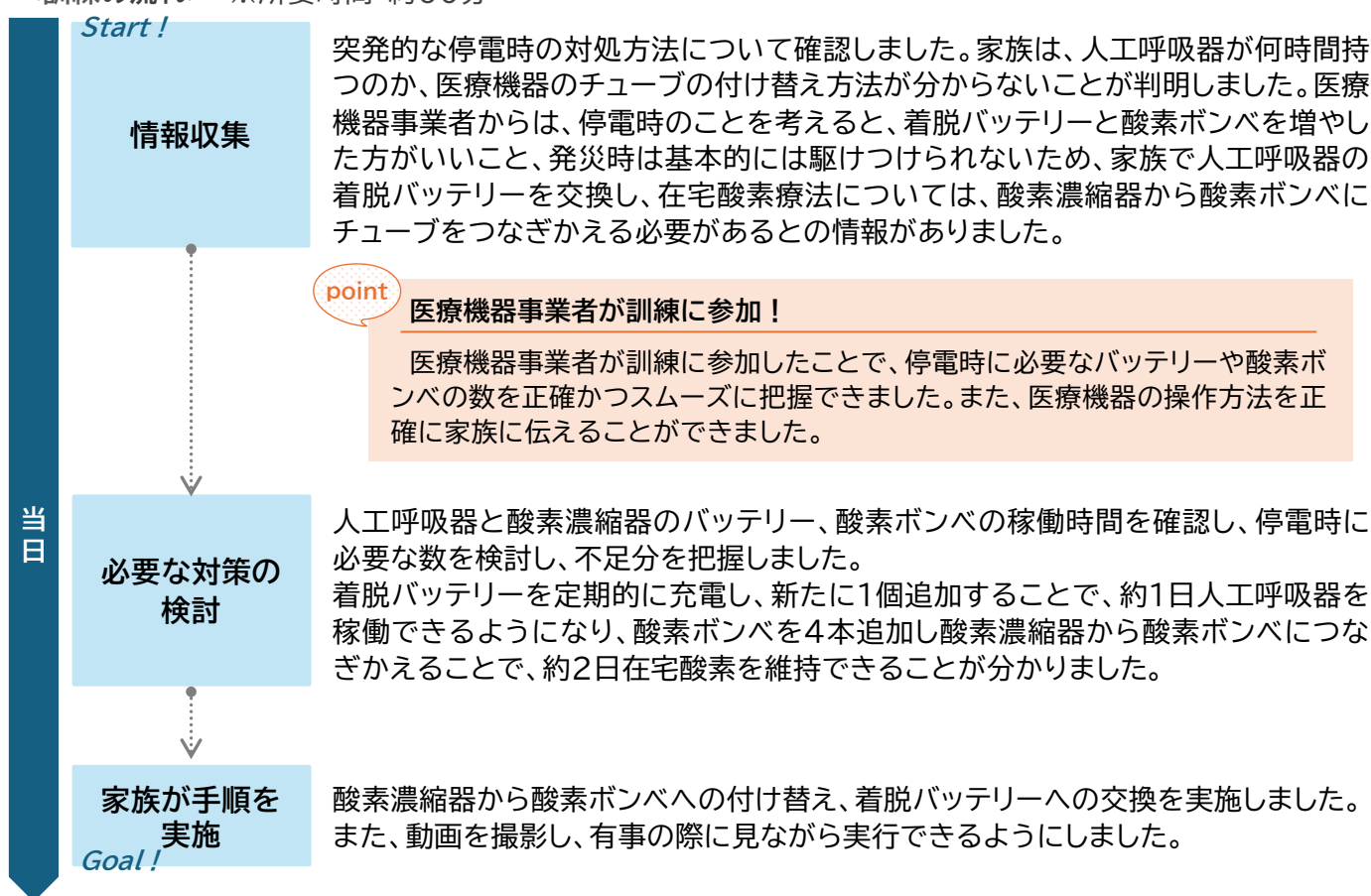
停電時の人工呼吸器、酸素濃縮器の操作手順の確認訓練(令和6年度・安芸区)

人工呼吸器、酸素濃縮器等を使用している患者の家族が、突発的な停電時の医療機器の電源確保に対して不安を抱えていたため、医療機器事業者と訪問看護等の支援者と一緒に、停電時に具体的に取り組むべき行動について確認する訓練を行いました。

訓練の内容

常時人工呼吸器使用患者の「わたしのひなんシート」の更新時に、支援者含め家族が、突発的な停電に対する医療器具の電源確保等への対応を懸念していることが分かりました。そこで、人工呼吸器及び酸素濃縮器のバッテリー、酸素ポンベの稼働時間を確認して、停電時に必要なバッテリーや酸素ポンベの数を検討し、バッテリーの着脱方法や酸素濃縮器から酸素ポンベへの切り替え手順を確認しました。

<訓練の流れ> ※所要時間:約60分



訓練による効果

◆ 家族が停電時の医療機器の操作方法が分かり、実践できるようになりました。

停電時の医療機器の操作手順と、定期的なバッテリーの充電の注意喚起をまとめた**チラシを作成**し、機械の近くに貼っておくことを訓練時に提案しました。また、医療機器担当者の訪問時に、家族が**操作手順を毎回実施**することで実効性を高めています。

(3)医療的なケアが必要な方の訓練事例

本人の心身の状況	☐ 要介護 ☐ 難病 ☒ 身体障害 ☐ 人工呼吸器 ☐ 精神障害 ☐ 知的障害 ☐ その他	避難先	☐ 親族・知人宅 ☐ 福祉避難所 ☐ 市が開設する避難場所 ☒ 自宅(5階) ☐ その他
自宅の災害危険性	☐ 土砂災害 ☐ 洪水 ☒ 高潮 ☐ 津波	参加者	☐ 本人 ☒ 行政職員 ☒ 家族 ☐ 地域住民 ☐ 福祉専門職 ☒ その他

事例3-3-5

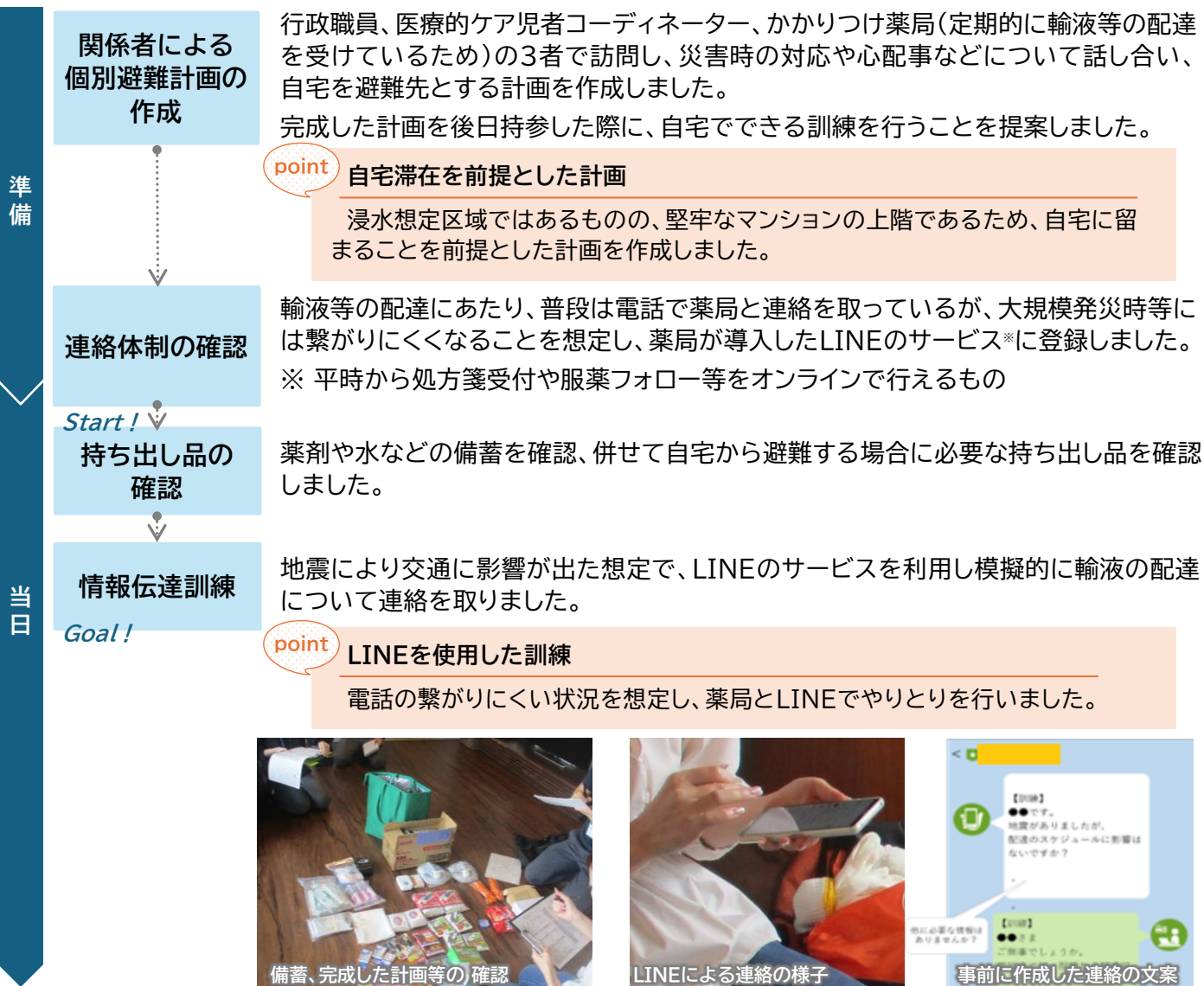
在宅避難を前提に連絡体制を確認する訓練 (令和6年度・中区)

災害時も在宅避難する想定の下、要支援者の訓練として、備蓄の確認や関係機関との連絡等、自宅での行動に絞った訓練や、自宅が危険になった場合は速やかに避難することができるよう持ち出し品の確認を実施し、計画を検証しました。

訓練の内容

自宅での滞在が原則となるため、備蓄や連絡体制等を確認しました。また、自宅が危険になり避難が必要になった時の持ち出し品の確認もしました。

<訓練の流れ> ※所要時間:約20分



訓練による効果

◆ (家族)災害時の行動について実際に確認できた

もともと漠然と「自宅に留まるしかないだろう」という想定でしたが、具体的な行動や機器の持続時間、関係機関への連絡方法や内容等について**具体的にイメージをすり合わせる**ことができました。

(3)医療的なケアが必要な方の訓練事例

本人の心身の状況	☐ 要介護 ☐ 難病	☒ 身体障害 ☒ 人工呼吸器	☐ 精神障害 ☐ 知的障害 ☐ その他	避難先	☐ 親族・知人宅 ☐ 福祉避難所	☒ 市が開設する避難場所 ☐ 自宅(階) ☐ その他
自宅の災害危険性	☐ 土砂災害 ☐ 洪水	☒ 高潮 ☒ 津波		参加者	☒ 本人 ☒ 行政職員	☒ 家族 ☐ 地域住民 ☒ 福祉専門職 ☐ その他

事例3-3-6

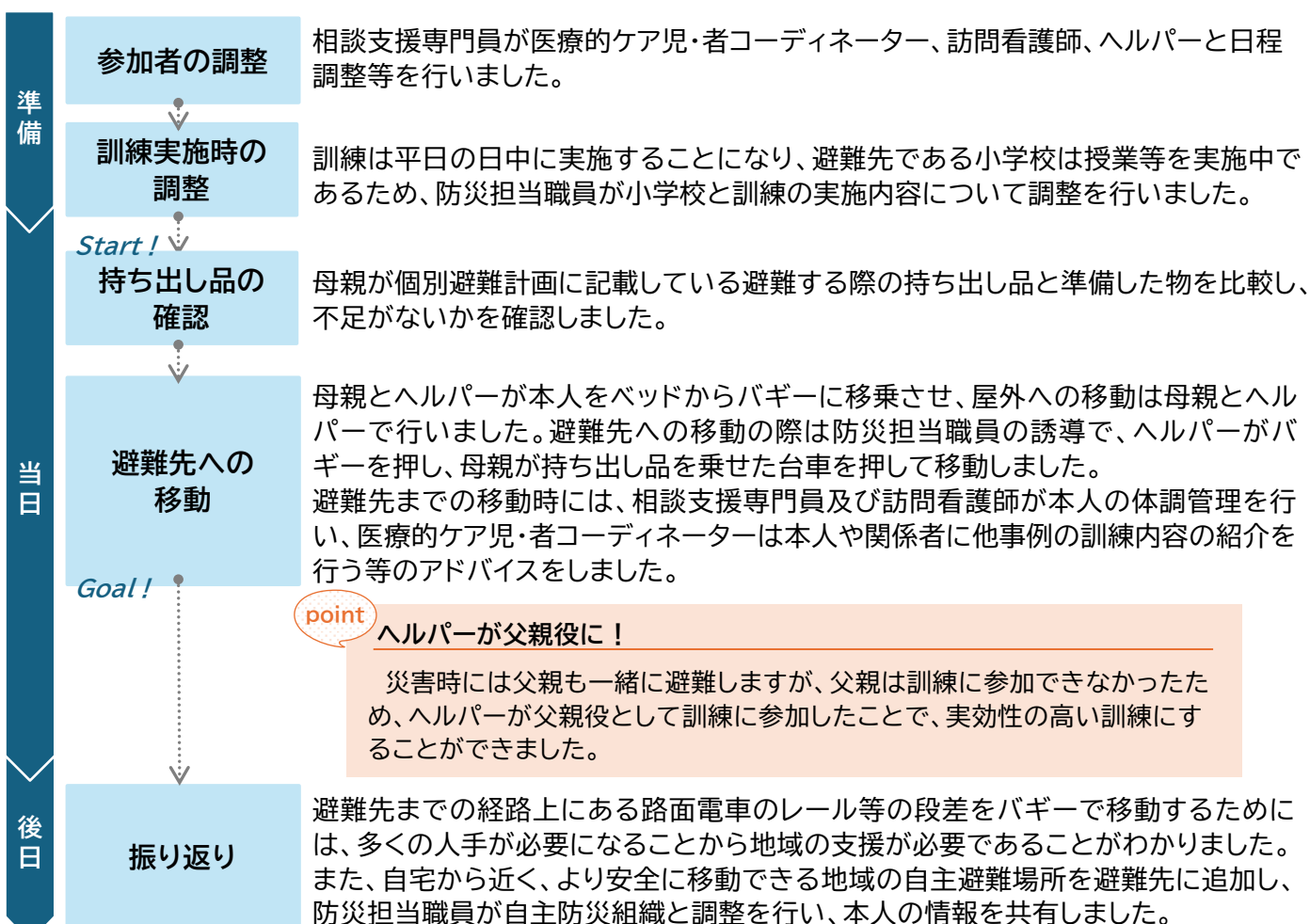
市が開設する避難場所への移動訓練(令和6年度・中区)

医療への依存度が高い本人の母親が、持ち出し品の確認や実際に避難先までの移動の訓練をしたいと保健師に相談し、保健師が相談支援専門員に訓練への協力を呼びかけ、医療的ケア児・者コーディネーター等の福祉専門職も参加した訓練を実施しました。

訓練の内容

台風の接近に伴い高潮警報が発表され、高齢者等避難が発令されたことを想定し、持ち出し品の確認を行い、市が開設する避難場所までの移動を実践しました。

<訓練の流れ> ※所要時間:約40分(準備期間:2ヶ月)



訓練による効果

◆ 計画の見直しや地域と情報共有するきっかけとなる！！

実際に避難先まで移動したことで計画の内容についての課題を確認でき、それを踏まえて、より安全に移動できる地域の自主避難場所を避難先に追加する等、**計画を見直すきっかけ**となりました。また、今回の訓練を通して、**担当民生委員と繋がる**ことができました。

本人の周囲の意識を向上するための工夫（佐賀県武雄市）

訪問介護・看護の時間を調整し、保護者の避難準備時間を確保！

< 訓練を通じた気づき >

医療的ケア児本人の生命維持のために必要な機材や物資などの持出品は準備していても、本人とともに避難しなければならない保護者に必要な避難生活のための持出品は準備できていないことに気づきました。

関係者との調整によって…

ヘルパーや看護師の訪問時間を調整し、保護者の避難準備を行う時間を確保した！

大雨で避難が必要になりそうな場合には、日頃から自宅を訪問しているヘルパーや訪問看護師が自宅に訪問して、避難行動を開始するまでの間、医療的ケア児を見守ることにし、その見守りの間に、保護者自身が避難準備をすることが出来るようにしました。



避難準備の様子

訓練への注目を集め、“支援が必要な人がいる”ことを住民に周知！

< 訓練実施以前の状況 >

地域の中で、医療的ケア児の存在や、避難に支援が必要なことがあまり知られていない状況でした。

訓練への注目を集める工夫によって…

訓練を通して、地域に支援が必要な人がいることを理解してもらった！

訓練の際に、様々な関係者が医療的ケア児本人の自宅に集まることで、周囲からの注目が集まり、地域の中に避難支援が必要な人がいることを知ってもらうことができました。



訓練の様子

個別避難計画および避難訓練実施に関する事例集

【問い合わせ先】

広島市危機管理室危機管理課

TEL:082-504-2653

FAX:082-504-2802

E-mail:kikikanri@city.hiroshima.lg.jp



ひろしま都市犬
はっぴー